

新鹿島市民会館（仮称）建設基本構想・基本計画

平成 27 年 3 月

鹿島市

はじめに

現在の鹿島市民会館は、昭和30年の町村合併後、市制10周年記念事業のひとつとして昭和41年に完成し、当時としては稀有の突出した豪華な設備とコンクリート造の威容を誇り、長きにわたり市民交流の場、文化活動発表の場など、市民の融和に大きな役割を担う拠点となってきました。

しかしながら、築後50年近くが経過していることから、ここ数年来は設備や建物の老朽化の進行、機能面や性能面の不便さ、建物内外の改修の増加、バリアフリー化等、文化交流施設として現在の市民ニーズに対応できていない様々な課題を抱え、利用者数も横ばいか減少してきているのが現状であり、市民に安全かつ快適に利用いただける文化交流施設を整備することが急務となっていました。

このような背景のもと、市では民官協働の「みんなですすめるまちづくり」を具現化するため、平成23年度から平成24年度の2箇年かけて「鹿島市まちづくり懇話会」を開催し、まちづくりに関する各種テーマの中で市民会館の建設が話し合われ、現状の建物について新築または改築の意見が出されました。

そして、この懇話会と並行し、平成24年6月「鹿島市まちづくり推進構想（鹿島ニューディール構想）」を提案しました。これは、第六次鹿島市総合計画が終了する平成32年までに私たちのまちが「進むべき目標」を明確にして、市の活力を回復するために市民が一丸となって取り組んでいただきたい構想（施策）を示したものであります。

この構想には4本の柱を設定しており、そのひとつには市内に立地する主な公的施設の再配置を行う「鹿島市シビックセンター再整備構想」において、様々な施設を再整備する中で特に優先的に対応しなければならない公的施設として、「中川エリア」に立地する市民会館の整備を盛り込みました。

この施策に対する市民の意見交換の場として、平成25年度には市内の主要団体、利用団体、公募市民、学識経験者から組織する「鹿島市民会館建設研究会〔6回開催〕」を設置し、建設の是非をはじめ、建設場所、規模、機能など市民の視点から委員による意見交換が行われ、総論として「市民会館の建設に関する判断を『是』として、現在地での建て替えや財源、公共施設が集まる中川エリア全体の整備構想なども検討すべき」旨の研究結果の報告がなされました。

そして今回、平成26年度には前年度の研究会代表委員と建築や利活用の専門者と組織する「鹿島市民会館建設検討委員会〔9回開催〕」を設置し、多角的見地で専門的な検討を行った結果、中心市街地の商業施設と密接な関係があり公共施設が多く整備され、それらと連動や連携が図りやすい中川エリア内へ新築する方針の提案を受けました。

この検討を進めていく上では佐賀大学の協力を得て、新鹿島市民会館（仮称）建設へ向けた具体的な基本構想・基本計画の素案について、検討委員会へ随時諮りながら内容を積み重ねてきました。また、その総括として昨年度の研究会に引き続き、佐賀大学大学院教授の三島伸雄様にはコーディネーターでご尽力いただき、鹿島市観光協会の中村雄一郎様には座長でスムーズな会議の進行に努めていただいております。

その成果が、新鹿島市民会館（仮称）建設基本構想・基本計画であります。

新鹿島市民会館（仮称）については、市民が身近に利用できる市を代表する公共施設のシンボルとして、新たなまちづくりにつながる市民文化交流の施設となるよう期待し、その実現に向けて取り組んでまいります。

最後に、新鹿島市民会館（仮称）建設にかかる研究・検討にあたりましては、ご尽力いただきました研究会及び検討委員会の皆様、並びに、ご意見やご提案をいただきました市議会議員や市民の皆様へ感謝し、本基本構想・基本計画策定にあたってのご挨拶といたします。

平成27年3月

鹿島市長 樋口 久俊

新鹿島市民会館（仮称）建設基本構想・基本計画

目 次

第1章	中川エリア整備のグランドデザイン	
1. 1	基本構想	1
1.1.1	基本方針	
1.1.2	各公共施設の機能	
1.1.3	現状の課題	
1.1.4	グランドデザイン（案）	
1. 2	基本計画	7
1.2.1	法的課題からみた敷地条件	
1.2.2	施設配置および周辺整備	
1.2.3	施設の性格付け	
1.2.4	大ホールの客席形状と舞台設置階	
1.2.5	新鹿島市民会館（仮称）の規模、機能	
1.2.6	事業費、事業手法の検討	
1.2.7	課題への対応	
第2章	事業実施にあたっての条件整理	
2. 1	新規事業採択に係る必要条件	24
2.1.1	実施に至った経緯	
2.1.2	事業実施上の課題への対応	
2.1.3	社会経済情勢等	
2. 2	その他の条件	29
2.2.1	地域の協力体制	
2.2.2	事業の緊急度	
2.2.3	事業の重要性	
2.2.4	取り巻く状況	
2.2.5	利用状況	

第3章 新規事業採択時の評価	
3. 1 事業計画の「必要性」「合理性」	37
3.1.1 「必要性」について	
3.1.2 「合理性」について	
3. 2 事業の今後	39
資料編	40
1. 佐賀大学大学院都市工学専攻修士課程学生による提案作品	
2. 参考事例	
3. 建設費の参考事例	
4. 鹿島市民会館建設検討委員会 委員リスト	

第1章 中川エリア整備のグランドデザイン

1.1 基本構想

1.1.1 基本方針

新世紀センター（仮称）の敷地については、鹿島市民会館建設研究会および鹿島市議会での議論も踏まえて、昨年度の研究会において新鹿島市民会館（仮称）の建設に向けた議論を進めるなかで、中川エリア全体での配置を再検討し、整備計画を策定して進めることになった。公民館・福祉利用団体等が中心商店街に移転した後の鹿島市福祉会館は、43年経過し、老朽化が激しく、耐震性能や防火、避難上も問題のある施設になっており、コスト面、耐用年数などから改修することは難しい状況にある。そこで、その福祉会館の解体を念頭に置いた計画を検討するべきであることが提言された。

この提言を受けて、ここでは中川エリア整備のグランドデザインを示す。まず、グランドデザインの基本方針は以下の通りとする。

- ① 中川をはさんだ位置にある駅前や商店街との歴史的関係や空間的連続性を考慮し、中心市街地としてのコンパクト性を発揮できるものにする。
- ② 大駐車場を中心に、一体的かつ十分な広さをもつ駐車場を確保する。
- ③ 新築する新鹿島市民会館（仮称）とエイブルとの一体性を確保する。
- ④ 鹿島市福祉会館を解体し、その跡地に新世紀センター（仮称）を建設する。

この基本方針を踏まえて、基本構想を策定する。

1.1.2 各公共施設の機能

中川エリアに立地する公共施設は、既存の施設を含めて以下のような機能を有している（図1.1参照）。

（1）市役所（既存）

鹿島市役所は、鉄筋コンクリート造6階建ての建物で、行政機能と市議会機能を有している。1階は市民課が中心で、市民に開かれている。円形の市民プラザが正面右手にあるが、これは現在の市役所が建設されるにあたって「市民のための広場」という強い意向で設けられたものである。市役所と市民会館は1階レベルのピロティと2階レベルのデッキで接続されている。

また、車路を挟んだ南側に鉄骨平屋の公用車車庫棟がある。

（2）エイブル（既存）

鹿島市の生涯学習センターは、生涯学習交流会館、小ホール、図書館および保健センターを有する複合施設として建築されたものである。サークル活動や

研修会等にも対応しており、市民交流の場としても利用されている。

(3) 公園（既存）

市庁舎に隣接した都市公園である中川公園には、バックネットを擁したグラウンドと中川沿いの遊歩道と一体となった遊具などがある。

(4) 新世紀センター（仮称、新設）

鹿島市福祉会館を解体した跡地に新築する。市の危機管理機能、鹿島市上下水道、佐賀県杵藤農林事務所などの機能が入る予定である。

(5) 新鹿島市民会館（仮称・新設）

生涯学習センター・エイブルと新世紀センター（仮称）との間に建築する。したがって、市民交流の場として、市民活動、市民防災を中心とする機能を充実させるものとする。

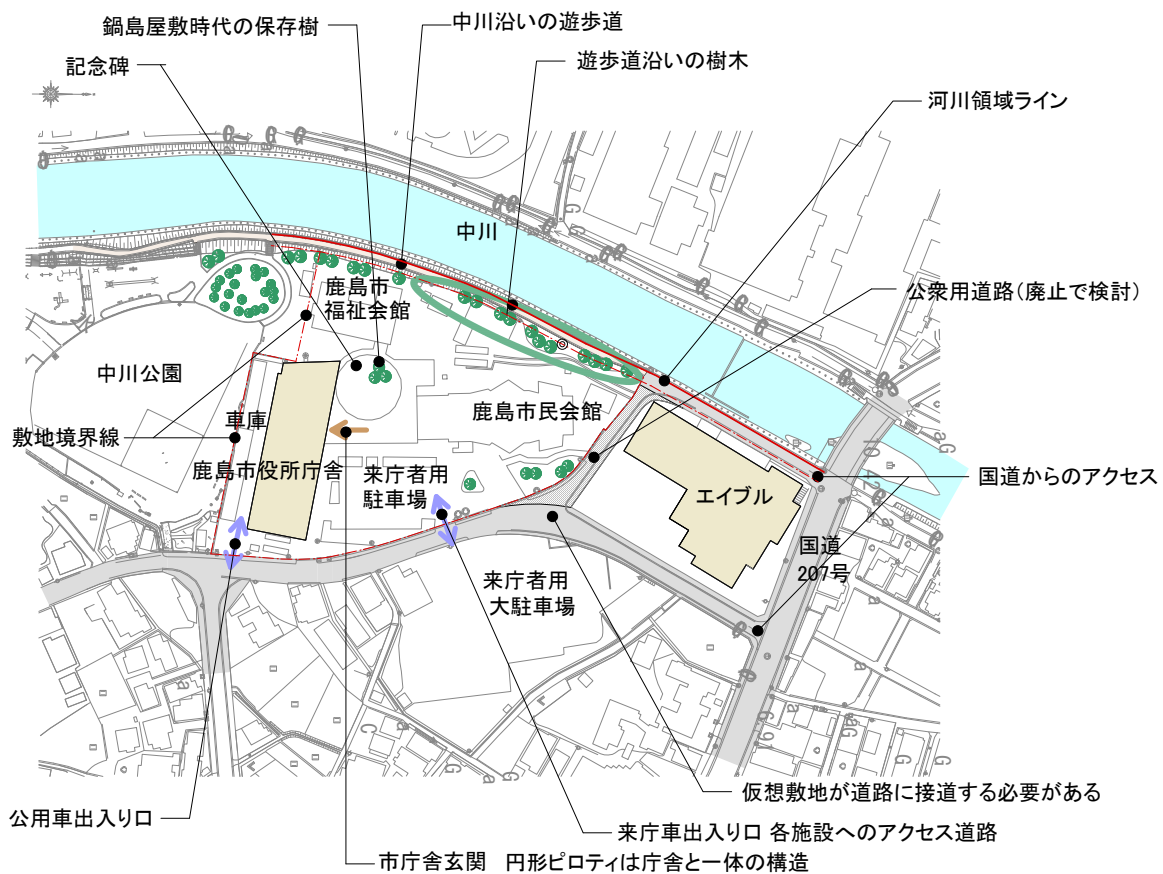


図 1.1 中川エリアの公共施設配置の現状

1.1.3 現状の課題

整備方針と照らし合わせた中での現状の課題を列举すると以下の通りである。

(1) 中心市街地としてのコンパクト性の創出

歴史文化拠点および商業交流拠点、駅前拠点と一体的な整備を図り、コンパクト

トなまちづくりを推進する必要がある。駅からのアクセスや商業交流拠点との行き来において、歩行者や自転車利用者などにとっての安全性なども含めて確保していく必要がある。また、中川エリア導入部である国道 207 号線沿いの正面性のあるサインや河川空間等のランドスケープデザインにより、人の流れをスムーズに導くことの検討も必要である。

(2) 大駐車場を中心とする十分な駐車場の確保

駐車場確保は重要な検討事項である。現状が中川エリア内で約 630 台であるため、それと同等程度を確保することを目指す。中川エリア内で確保できない場合は、その周辺で確保していくことも視野に含めていく必要がある。

(3) エイブルとの一体性の確保

新鹿島市民会館（仮称）のエイブルとの一体性を確保するためには、間にある公衆道路の廃止を視野に進めていく必要がある。基本的には鹿島市の判断で廃止できるが、中川の管理道路との関係も含めて整理していく必要がある。建築基準法上も新鹿島市民会館（仮称）とエイブルは、一体の建築物（一つの敷地）として扱うこととなる。

(4) 福祉会館の跡地における新世紀センター（仮称）の建設

新世紀センター（仮称）は、その敷地が市庁舎と現鹿島市民会館に連続した位置に独立した建物として建設を計画されているので、道路に至る専用の敷地（通路）を確保する必要がある。

1.1.4 グランドデザイン（案）

（１）中心市街地整備の基本的な考え方

鹿島市の都市再生も考慮して、中川エリアが位置する鹿島市中心市街地のコンパクトな空間整備の基本的な考えを以下に示す。

都市再生に向けての課題（総論）：

1. **目 標** 市民の文化・交流・安全が実感できるまち（例）
2. **指 標** 人口減少社会の中で、3～5年先の将来像を実感できること
例：市民の文化的活動や交流活動の増加
市民活動・防災拠点、商業・コミュニティ拠点、歴史文化拠点を
行き来する市民等の増加
防災に関する情報の共有化を実感している市民の増加
3. コンパクトな町としての中川エリアと中心部との関係を強化すること
4. 都市再生全体として具体的事業をあげる必要がある。
→ ニューディール政策を基本に考える

これを図に表わすと、**図 1.2** のようである。

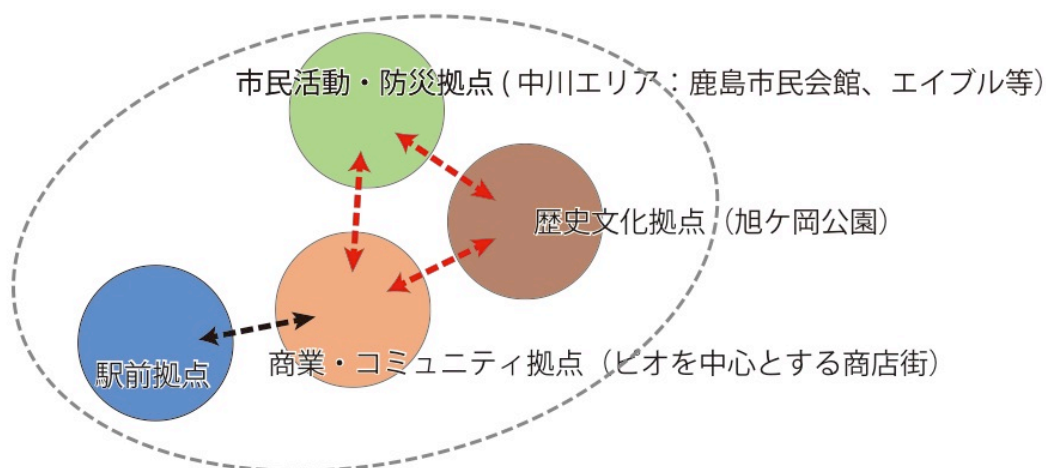


図 1.2 鹿島市中心市街地における都市再生整備の方向

新鹿島市民会館（仮称）に即した課題（各論）：

1. 新鹿島市民会館（仮称）は、地域交流施設として再生し、市民の交流等が行われるものであること
2. 中川エリアの中心市街地における位置づけ・特性を考える必要がある。
 - 1) 元々旧鹿島鍋島家の屋敷が構えられたところで、中川を間にはさみ、町部と一体的につくられたところである。その後、鹿島市に譲渡され、市民に開放されて市役所が建設され、様々な市民活動拠点が集約された地区である。し

たがって、町部の交流機能の向上のためには、その拠点機能の強化が不可欠である。

- 2) 駅と中川エリアで町を挟み込み、その環境を整備することによって、「駅 ⇄ 町 ⇄ 中川エリア」という人の流れを創り出すことが考えられる。
- 3) 中心市街地につくられる施設との連携や役割分担を考える必要がある。例えば、市民の文化的生活の向上、防災機能（市民の避難所、備蓄倉庫等）を果たすなど

3. 現在どれだけ活用されているかを示すこと

行政機能や図書館などがここに集約されていることによって、市民が中心部に来ている。

市民の発表会などがたくさん行われており、その継続と活性化が求められている。例えば、子供たちの発表会や演奏会、など。

4. その他

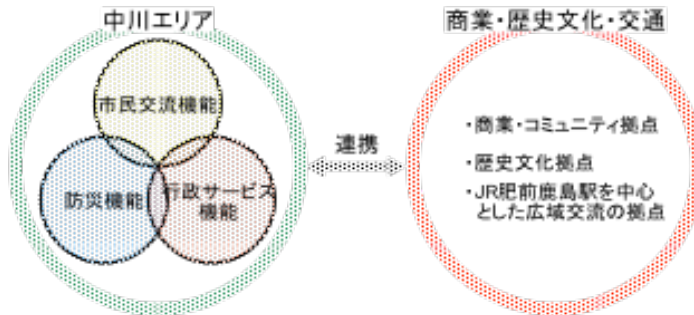
- ・ 市内循環バス（まちなか）の可能性
- ・ まちなかを車で巡れる駐車場の確保やソフト事業（仕組み）の導入
- ・ 商店街のコミュニティ施設（市民活動サテライトとしての市民交流プラザ等）の充実

（2）中川エリアの整備の検討課題と検討方向

上記の鹿島市中心市街地における都市再生整備の基本的な考え方を踏まえ、中川エリアの整備の検討課題と検討方向をまとめたものを図 1.3 に示す。

中川エリア全体計画における今後の検討課題

中川エリアに期待される機能と中心市街地全体としての連携強化



それぞれの拠点機能の強化を図るための検討

・市民交流の拠点

生涯学習施設(エイブル)と連携した新・市民交流施設整備による、あらゆる市民文化交流の拠点としての充実

・防災の拠点

防災・危機管理の拡充(新世紀センター)、それを補完する機能の強化(避難施設、備蓄倉庫、防災ヘリポート等)

・行政サービスの拠点

市庁舎横における新世紀センター整備による、県、市の行政サービスの連携強化

・市街地との連携拠点

市内循環バスなどの情報発信を含む、現在の円形広場に代わる市民コミュニケーションの創造

・エリア導入部

町からの人の流れを誘導する導入部分のランドスケープデザイン(河川沿いの空間等)

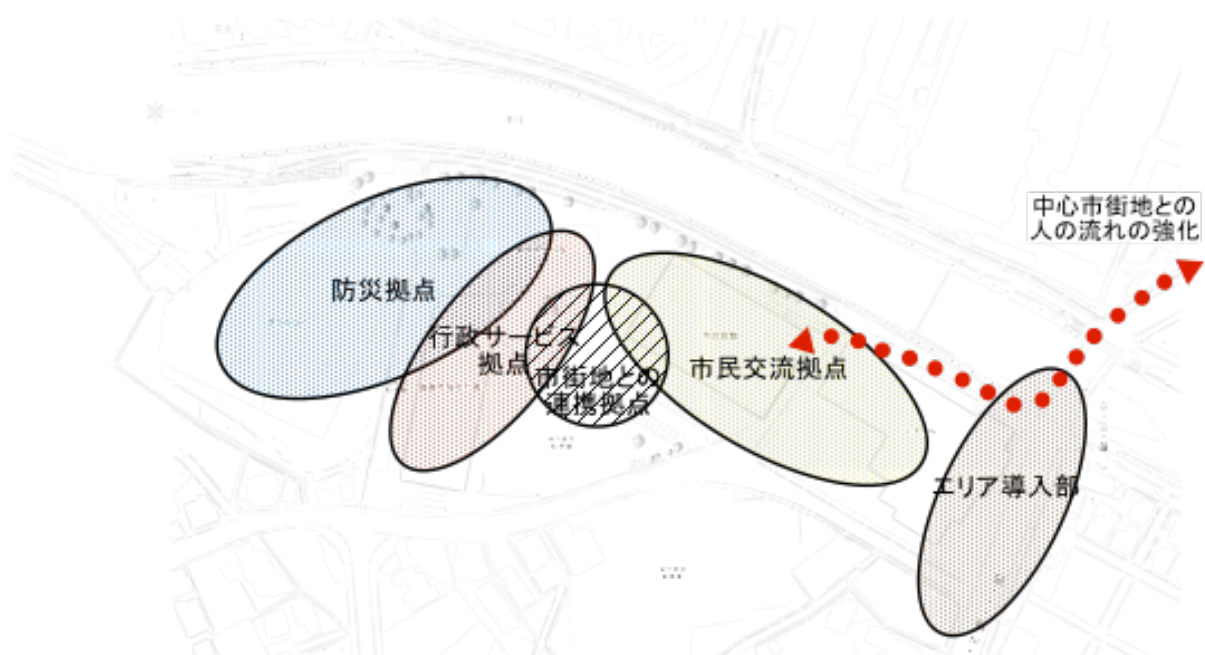


図 1.3 鹿島市中心市街地の都市再生と中川エリアの整備の方向

1. 2 基本計画

1.2.1 法的課題等からみた敷地条件

都市計画法、建築基準法、河川法、道路の管理状況など、中川エリアにおける規制等を含めて敷地条件を検討した。その課題と解決すべき方向を表 1.1 に示す。

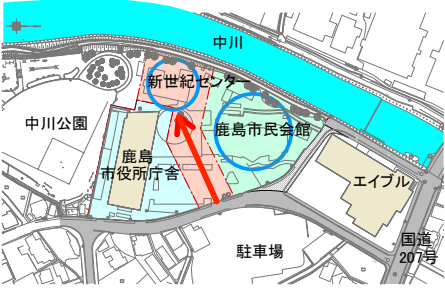
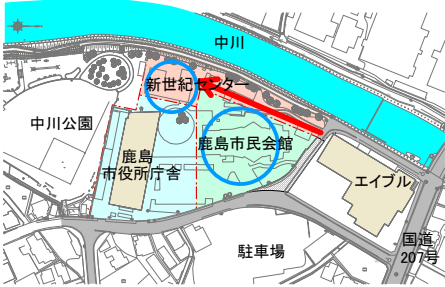
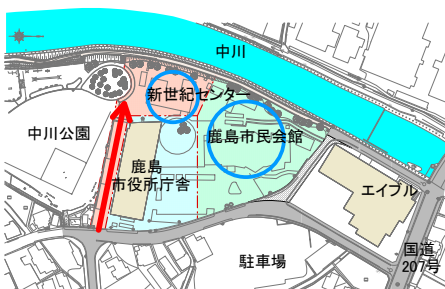
表 1.1 中川エリア整備における課題と解決すべき方向

大項目	事 項	対応が必要な事項	解決の方向	備 考
(1)中川(二級河川)との関係	1)河川領域の境界線	歴史的な経緯があり、河川領域の境界線が明確でない部分がある。	鹿島土木事務所との協議	
(2)中川公園との関係	1)字図上の関係	現市庁舎が、字図上は公園のために確保された土地に食い込んでいるが、公園面積を他の敷地で代替的に確保している。	現時点では特に問題なし	
	2)都市計画決定	新世紀センターのアクセス道路の取り方によっては、都市計画公園内に通路を確保せざるを得ない。	都市公園の決定内容を整理し、その変更を鹿島市都市計画審議会に諮問する。	
(3)新世紀センターの敷地とアクセス路の確保	1)新世紀センターの敷地設定	建築基準法上、新世紀センターは可分の建物であるため、敷地を接道させる必要がある。	仮想での敷地設定を行う。	
	2)アクセス路の取り方	新世紀センターを別敷地にすること、緊急自動車能通过ることなどから、アクセス路を確保する必要がある。	現駐車場出入り口、都市計画公園側、河川沿いの3案でアクセス路を検討する。	デザイン上の工夫も必要
	3)緊急自動車対応	緊急自動車等の出動経路を確保する必要がある。	敷地内通路として幅員6mのアクセス路を確保する。	
	4)駐車場の確保	新世紀センターの公用車および来庁者用の駐車場を確保する必要がある。	駐車場スペース ・本庁舎前(50台) ・新世紀センター周囲(30台) ・新市民会館前(20台) ・エイブル前(30台) ・大駐車場(210台) ・中川住宅跡地(190台) ・ゲート式駐車場(100台)	
(4)市庁舎との関係	1)円形のピロティ部分	プロポーザル時に、広場案として採用されたため、思い入れがある。	時代を経て要請されていることが変わってきていることなどを総括する。	既存市庁舎と一体的に作られているため、構造的な検討が必要。
	2)円形の空地部分	鍋島屋敷時代からの保存樹木と石碑の取り扱いを検討する必要がある。	石碑は移設することが可能。樹木の移植は難しい可能性が高い。移植医に相談することが望ましい。	
(5)建物同士の一体性	1)エイブルと新市民会館の関係	エイブルと新市民会館の裏舞台部分を一体的に活用できるようにする。	公衆用道路の一部廃止。	
	2)新世紀センター(仮称)と新鹿島市民会館(仮称)の関係	中川エリアとして折角新しく建設されるものなので、デザイン上の一体性の工夫が望まれる。	・駐車場側の壁面線の統一 ・中川側の景観の創出 ・材料や色の検討	
(6)その他	1)中川エリア全体のデザイン	建物の意匠の多様性と統一性をいかに図るか。	プロポーザルおよび基本設計・実施設計時に検討する。	
		中川エリア全体として、公園等をどのように利活用するか検討する必要がある。	中川公園の利用状況の確認と新たな利用方法の提案	

また、これらの結果も踏まえつつ、市道から新世紀センター（仮称）へのアクセス道路の取り方について3パターン作成し、その比較を行った（表 1.2）。これは、新市民会館の敷地をエイブルと一体的にしつつ、新世紀センター（仮称）を敷地可分として取り扱う必要があることからくるものである。その比較検討の結果、市道から駐車場中央部分にアクセス道路をとる A 案を最終案とすることになった。ただし、新世紀センターの工事期間中は現鹿島市民会館がまだ解体されていないため、工事用車両路を B 案の方向でとる必要がある。将来的にはその道がアクセス路になる可能性も残されている。これは、市役所の駐車場との一体的整備が可能になるというメリットはあるが、エイブルと中川との間の公衆用道路が一方通行であるため、公衆用道路の一部を廃止できない場合は、エイブルとの一体性が損なわれる。最終実施案をまとめる上での大きな論点である。

なお、使用者の安全性や大ホールの音響的への影響などを考慮すると、C 案が最もよいという意見もあったが、公園用地が減ることになるので、現時点では困難という判断に至った。将来的に検討してもらいたいという意見があったことを付記しておく。

表 1.2 新世紀センターへのアクセス道路の比較検討

	ゾーニング案	メリット	デメリット
A案	 <p>敷地中央部にアクセス通路を設置 各施設中央部に前面の来庁者用駐車場及び、新世紀センター公用車用アクセス通路を設置する。現在の円形ピロティは、庁舎玄関部分以外は解体撤去。</p> <p> ■ 市庁舎敷地 ■ 新世紀センター敷地 ■ 市民会館敷地 → 新世紀センターアクセス通路 - - - 敷地境界線 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 各施設へのアクセスが明確となる。 円形ピロティを撤去することで、中央に来訪者用駐車場が大きく確保できる。 市民会館用敷地が大きく確保できる。 中川沿いの遊歩道、緑地の景観がほぼ現状のまま残存できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 車の動線により、各施設間の歩行者の動線が分断される。 円形ピロティは解体撤去となる（構造上、市庁舎本体と一体のため、検討が必要）。
B案	 <p>中川沿いにアクセス通路を設置 中川沿いの遊歩道に沿ってアクセス通路を設置する。現在の遊歩道を拡幅し、アクセス道路とすることは、河川管理者との打合せが必要。円形ピロティは一部撤去。</p> <p> ■ 市庁舎敷地 ■ 新世紀センター敷地 ■ 市民会館敷地 → 新世紀センターアクセス通路 - - - 敷地境界線 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 車の動線と歩行者の動線が明確に分離でき、安全である。 現在の市庁舎用通路と接続することで、利用価値のある裏動線が確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中川沿いの樹木は一部撤去または移植となる。 市民会館用の敷地が他と比較して狭くなる。 現在の遊歩道を利用することは、河川管理者との調整が必要となるが、堤防等の補強が発生することも考えられるため、工期及びコストの検討が必要となる。
C案	 <p>中川公園側にアクセス通路を設置 現在の市庁舎用通路を利用し、公用車車庫は、解体のうえ新設。公園との境界線を一部変更。円形ピロティは残存または別途新設。</p> <p> ■ 市庁舎敷地 ■ 新世紀センター敷地 ■ 市民会館敷地 → 新世紀センターアクセス通路 - - - 敷地境界線 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 車の動線と歩行者の動線が明確に分離でき、安全である。 円形ピロティの残存が可能となる。 市民会館用敷地が大きく確保できる。 公園境界を通路として整備することで、防災公園としての機能を付加できる（ヘリポートとしての利用、災害避難時の拠点としてなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> 公用車車庫が解体のうえ別途新設となる。 公園との敷地境界線が変更となり、都市計画変更の手続きが必要となる。

1.2.2 施設配置および周辺整備

(1) 施設配置 (案)

図1.4に施設配置(案)を示す。上記のアクセス路の検討結果より、新世紀センター(仮称)の敷地の接道は敷地のほぼ中央部でとるものとする。しかしながら、前述したように、新鹿島市民会館(仮称)の建設の中で、道路との関係も含めて柔軟に対応する。

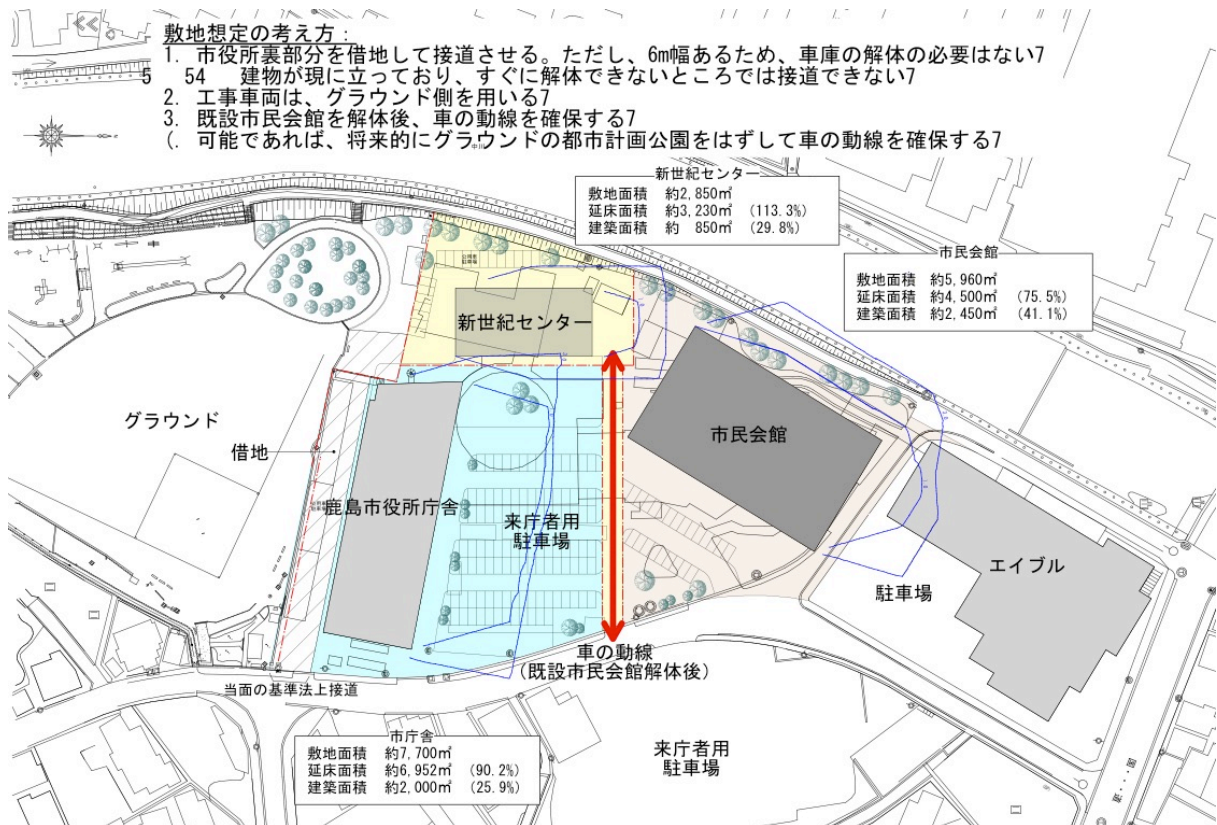


図1.4 施設配置(案)

(2) 敷地周囲部分の整備に関する検討

敷地周囲部分の整備方向に関する検討内容を図1.5に示す。特に、エイブルとの接続も考慮しながら、舞台裏への搬入路、駐車場、オープンスペースを適切に配置していくことが求められる。

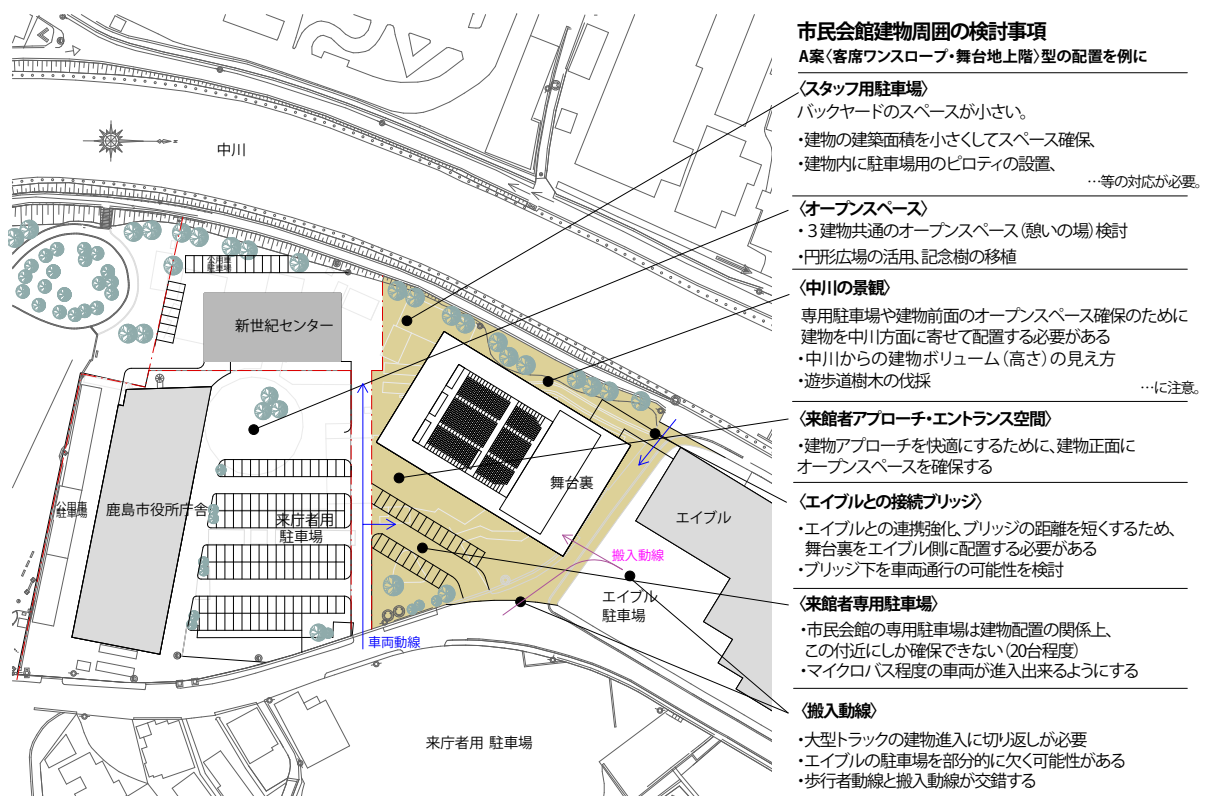


図 1.5 敷地周囲の検討

1.2.3 施設の性格付け

鹿島市のコンパクトな中心市街地整備に向けて、新鹿島市民会館（仮称）の性格付けを行い、整備すべき機能の整理を行う。

（1）施設の性格付け

- 市役所、エイブル（生涯学習施設・教育委員会所管）と新世紀センター（仮称）（市の危機管理機能、鹿島市上下水道、佐賀県杵藤農林）と同じ中川エリア内にあるということを生かし、市民の「交流」ならびに「防災」の機能を果たすための施設とする。
- エイブル（生涯学習施設）には置けない機能は必要である。ここでは、市民活動（NPO活動、ボランティア活動、文化的な作品製作等）とその発表の場、それを通じた交流の場として位置づける。
- 防災としても、新世紀センター（仮称）の行政危機管理という機能に対して、市民自らの防災という観点で整備を行う。具体的には、一時的な避難施設としての機能、ボランティアによる救助・救援・医療介護サポートなどの事務および物資保管機能、健康管理機能（日常を含む）などである。

(2) 整備すべき機能

【交流機能】

1. 大ホール空間だけでなく、施設全体を「市民が交流する場」として整備する。
2. 大ホール空間の一部にも、多目的な交流機能をもたせる。

Ex. ホワイエ…簡単な展示会ができるようにする

楽屋…通常は会議室として使用できるように配慮する、など。

3. 隣接するエイブルにない、あるいは不足している機能を整備する。

①エイブルに現状なくて必要である機能

- ・ 展示ホール …エイブル玄関ホールで展示会がなされているが、展示のための照明設備がなく適切な展示環境ではない
- ・ リハーサル室…現状としてエイブルの「いきいきルーム」をリハーサル室兼出演者大部屋に利用している
- ・ ミニステージ…気軽な雰囲気無料でミニライブやミニコンサートができる場所があれば交流イベントの回数が増えて、市民交流の活性化につながる。
- ・ カフェ・売店…市民交流を促す、また市民が施設に来るきっかけづくりとしては必要な施設である。

②エイブルに現状あるが、間借りしている機能

- ・ 「いきいきルーム」(リハーサル室兼大部屋の楽屋)
…この部屋は保健センターの管理となっているため、保健センターの業務時間外である土・日・平日夜間に借用するかたちで運用している。人間ドッグなどが行われる期間になると土日でも借用できない。

③エイブルに現状あるが、面積や設備などが不十分な機能

- ・ 音楽練習スタジオ…現状の部屋面積よりも小さくても良いので、スタジオの部屋数を増やして欲しい。また現在のスタジオは防音サッシでないため下階図書館に演奏音が漏れている。若者利用のための楽器・音響機器の設備が十分ではない。

【防災機能】

1. 新鹿島市民会館(仮称)が担う「防災機能」は市民の防災意識向上を図ることを目的とし、行政としての危機管理や防災機能を果たす市庁舎や新世紀センター(仮称)との機能分担を図る。

2. 市民の文化的交流空間に「市民の防災拠点」としての機能を埋め込む。そう
いうなかで、「防災」を介した市民交流として、防災への関心を高める活動（展
示や実演など）を行い、その可視化によって防災意識を喚起することが重要で
ある（例えば、カフェやエントランスの近辺）。
3. 災害時の対応：「大災害時（風水害、地震、火災）などの緊急避難所及びボラ
ンティア室、医務室」として機能するように整備する。

（3）交流施設としてのエイブルとの関係

交流施設としてのエイブルとの関係性について検討する（図 1.6 参照）。これは大
きく 2 案に整理することができる。1 つはエイブルにある音楽練習スタジオ・研修
室・いきいきルームを新鹿島市民会館（仮称）に設ける案（A 案）であり、もう一つ
はエイブルにある練習室・研修室・いきいきルームに類似する用途は極力省き、利用
者が異なることを意識した案（B 案）である。

A 案の場合、現在エイブルに押し込めている機能を新鹿島市民会館（仮称）に設置
し、エイブルの生涯学習センターとしての本来の機能に戻し、役割分担を明確にする
ことができる。これによって、公演の演奏者の練習室を確保できるといったメリット
はあるが、必要床面積は大きくなって 3 階建てにせざるを得ないなどのデメリットが
生じる。

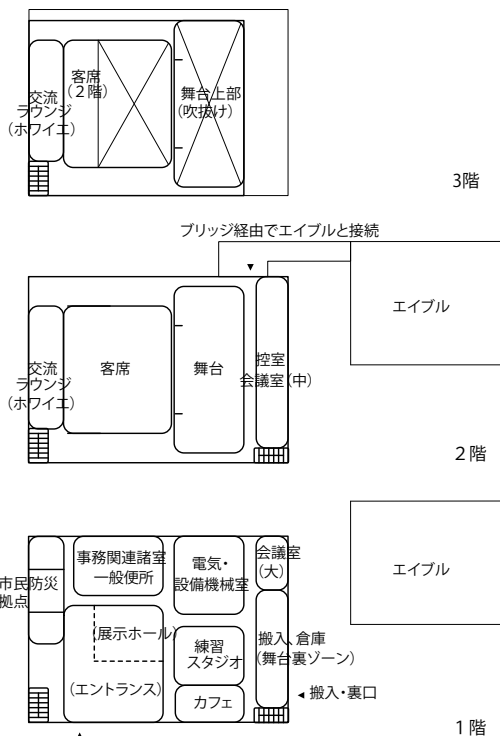
B 案の場合、現在不十分な状況にあるのを我慢しながら、相互に補完して利用する
ことになる。エイブルに無理やり押し込めている音楽練習スタジオの問題などを解消
することはできないが、動線はシンプルになり、建設コストは抑えることができると
いったメリットはある。

しかし、後述するように（pp.29-31）、エイブルホールの利用者等の要望では、音
楽練習スタジオ、研修室、いきいきルームを新鹿島市民会館（仮称）内に新規に設置
してもらいたいという声大きい。これは、その需要が多いことに起因している。そ
こで、現時点では、A 案を中心に計画を進めるものとする。

A案：音楽練習スタジオ、研修室、いきいきルームを新鹿島市民会館（仮称）に設ける。

（エイブルとの連携の考え方：不十分だった機能を満足させ、エイブルは生涯学習本来の機能に戻し、役割分担を図る）

- 長所① 練習空間が新鹿島市民会館（仮称）内に計画されるので、舞台出演者のための練習空間が確保できる。
- 短所① 付属空間が増えるため、敷地の大きさから1階に客席と舞台が収まらず、規模が3階建てになる（建設コスト増大）。
- 長所② 大ホール部門が2階・3階になって階層が切り離されるので、公演時に、1階の空間を公演以外の目的に利用できる。



B案：エイブルにある練習室、研修室、いきいきルームに似た用途は極力省く。

（エイブルとの連携の考え方：どうしても必要な機能を絞り込み、不十分な機能を相互に補完させる。）

- 長所① 客席を1階から配置することができるので、2階までのフロアボリュームに抑えられる。
- 長所② 客席・舞台裏が1階に置かれるので、動線がシンプルで分かりやすいものになる。
- 短所① 舞台と練習の場が離れるので、公演イベント時には建物同士の連携のしかたを考慮しておく必要がでてくる
- 短所② 利用空間が1階に集中するため、建築面積大につながり敷地に対して窮屈になる恐れがある。

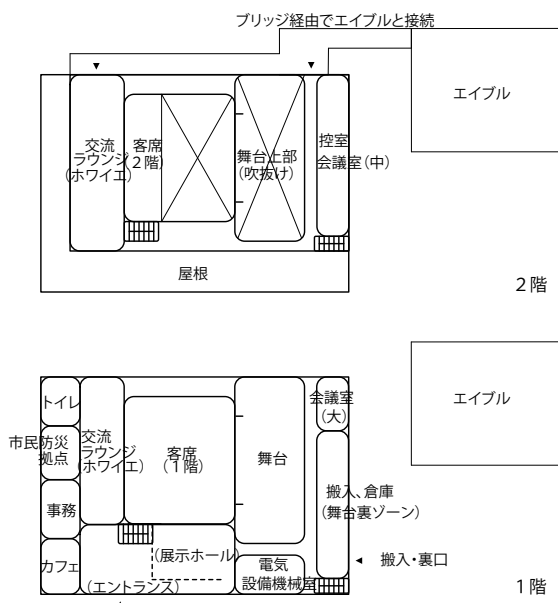


図 1.6 エイブルとの関係に関する検討

1.2.4 大ホールの客席形状と舞台設置階

本施設の中心的機能を果たす大ホールの客席形状と舞台の設置階について検討をおこなう（図 1.7 参照）。なお、現状の建物を大改修して建築する場合も想定され、その場合には、自ずと客席形状と舞台設置階がしぼられてくることを付記しておく。

（1）客席形状

大ホールの客席形状は、一般的なホール形状を勘案して、ワンスロープ型（A 案、B 案）とバルコニー2階型（C 案、D 案）で検討する。これは、ホールの機能、すなわち客席からの舞台の見え方と音響に関係するものである。

ワンスロープ型は、舞台の見え方としては全席が舞台の奥の方までよく見えるものになる。また、近年は音響技術が上がっているため、あまり問題にはならないが、音は上に上がる傾向にあるので、客席形状としては音楽向きではない。どちらかというところと演劇や講演会などに向いている客席形状である。

一方でバルコニー2階型は、2階席を設けることになるので、舞台との距離は近くなるが、2階席からは舞台奥は見えにくい。どちらかというところ音楽の演奏会などに向いている客席形状である。

建物周囲との関係でいけば、よりコンパクトになって建物周囲に余裕ができるがバルコニー2階型である。敷地に余裕がない場合には、バルコニー2階型（C 案、D 案）が望ましい。

（2）舞台の設置階

次に、舞台の設置階を検討する。舞台の設置階は、大きく、地上設置型（A 案、C 案）と2階設置型（B 案、D 案）に分けることができる。これは、1階をどのように利用するかということと、エイブルホールとの関係に関わる問題として検討する必要がある。

まず、1階をどのように利用するかという点では、1階の利用舞台を地上に設置した場合、1階がほとんど大ホールで占めることになる。これは、市民が製作した作品等の展示スペースが欲しいという要望があがっているが、その展示ホールを1階に設けることが難しくなる。

次に、エイブルホールとの関係で考えると、エイブルホールが2階にあるので、裏動線のスムーズな接続を考えると、舞台裏を2階に設けることが望ましい。

大雨で1階が冠水する可能性があることや、災害時の緊急避難所として利用することを考えた場合にも、2階にあることが望ましいと考えられる。

以上より、展示ホールの設置を考慮すると、2階設置型（B 案、D 案）が望ましい。

大ホールの客席形状および舞台設置階の検討

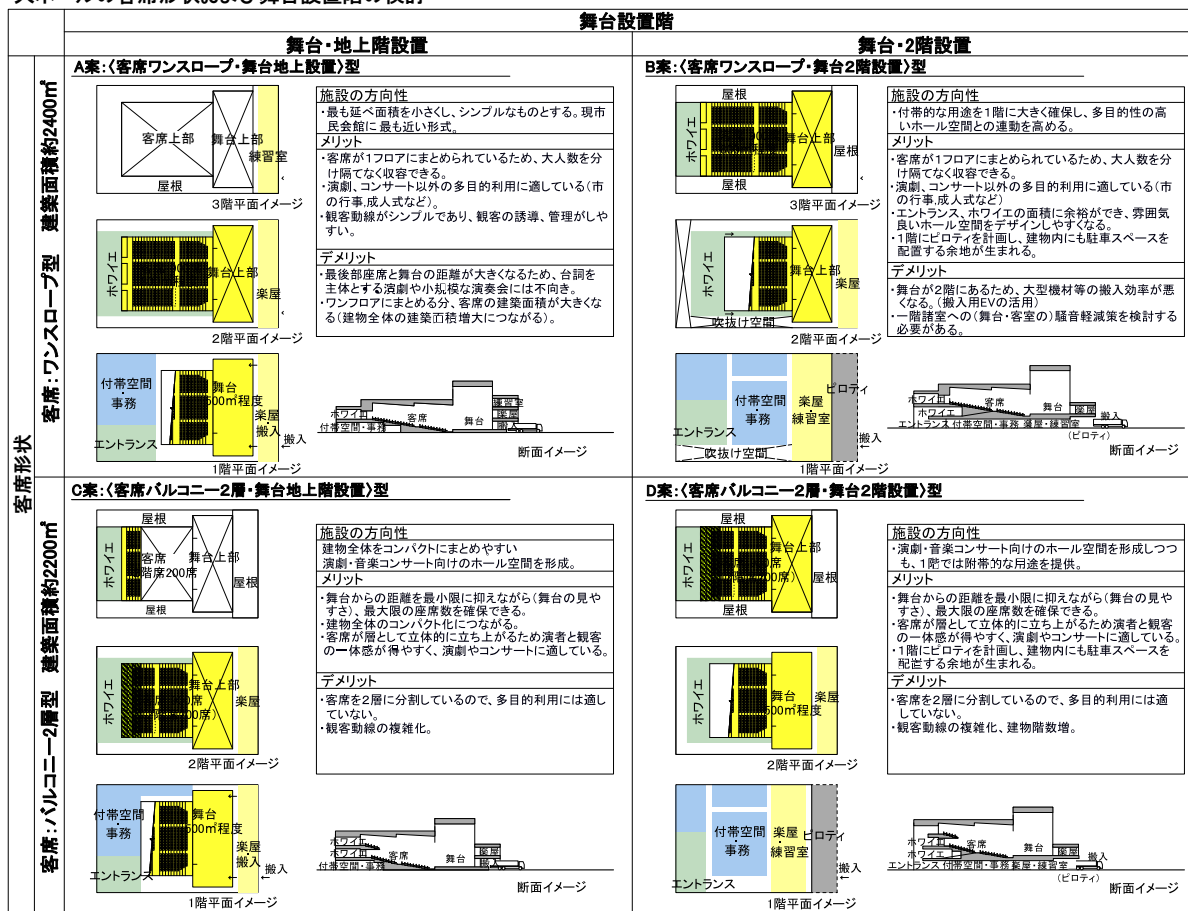


図 1.7 大ホールの客席形状および舞台設置階の検討

1.2.5 新鹿島市民会館（仮称）の規模、機能

表 1.3 に新鹿島市民会館（仮称）の面積表を示す。上記のことを考慮して、特に市民活動および市民防災機能を充実させるものとする。

例えば、1階共用部門に多目的に利用できる交流ラウンジや展示ホールを備えて市民活動の活性化を図る。展示ホールでは、市民が制作した各種作品（絵画・工芸品、アニメ、衣服など）の展示ができるように展示パネルや照明を適切に整備することが望まれる。ライブでの音楽会（クリスマスイベントなど）ができるように防音にも配慮する。交流ラウンジでは、こうして集まった市民がこれらのイベントに接しながら交流を行う場である。気軽に集って話ができるような雰囲気をつくるために、ちょっとしたカフェも楽しめるようにする。

上記の施設では、防災関連イベントも行い、市民の防災意識向上も図る。また、防災関連部門として防災支援室や防災サポータールームを設け、上記の諸室は災害時の緊急避難所、医務室等として市民に開放できるものにする。

以上の検討結果を反映した現時点でのプラン案を図 1.8 に示す。

表 1.3 鹿島市民会館（仮称）の面積表

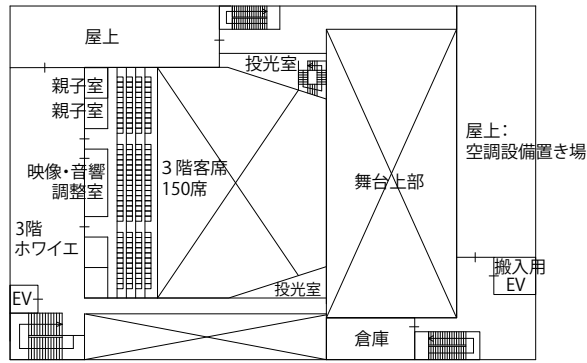
部門	室名	設置階	床面積	備考
共用部門	交流ラウンジ (エントランスホール)	1階	300	<ul style="list-style-type: none"> 目的のない人でも気軽に入ってこれるような明るく開放的なイメージをもたせる ラウンジ機能としてのテーブル、ソファの設置 館内の各イベントを案内するモニターの設置
	展示ホール (展示、ミニライブなど、多目的に活用できるものとする)	1階	250	<ul style="list-style-type: none"> 可動間仕切り壁を採用し、隣接する交流ラウンジ(エントランス)と一体的なスペース活用を図ることで、様々な交流活動のニーズに対応する。また、簡単な演奏会が実施できるように可動間仕切り壁を防音性能の高いものとする 展示会のための照明設備、演奏会のための音響設備に充実させる。
	カフェテリア	1階	70	<ul style="list-style-type: none"> エントランスホールに隣接させ、利用しやすさに配慮
	利用者用便所	1階	70	<ul style="list-style-type: none"> 多機能便所、ベビーチェア配備
防災関連部門	防災支援室(セミナー室)	1階	90	<ul style="list-style-type: none"> 各自治組織代表や自主防災組織代表等の会議を適宜行い、行政の防災等の危機管理に対する支援を行う。そのため、行政の危機管理室とのホットラインなども設ける。その他、防災セミナー：市民レベルでの防災活動の拠点としても整備する。
	防災サポータールーム (会議室)	1階	90	<ul style="list-style-type: none"> 日常時は防災支援および文化交流支援のミーティングスペースとして幅広く活用する 災害時はボランティアの待機所として機能
客席・舞台部門	舞台	2階	430	14m×30m
	2階ホワイエ	2階	300	<ul style="list-style-type: none"> エイブルとの接続ブリッジ(2階床レベル)から2階ホワイエに直接アクセス出来るようにする 簡単な展示会ができるように、壁面展示が可能な壁仕様、照明設備に配慮
	3階ホワイエ	3階	200	
	利用者用便所	2階	80	<ul style="list-style-type: none"> 多機能便所、ベビーチェア配備、 高齢者利用に配慮して洋式便所を基本とする
	2階客席(700席)	2階	600	<ul style="list-style-type: none"> 前方の席(列数等は設計時の協議の上決定)は可動席とし、張り出し舞台の設置に対応する(NHKのど自慢などの出演者キャパシティに対応) 車椅子席(5席)
	3階客席(150席)	3階	130	
	親子室(2室)	3階	16	<ul style="list-style-type: none"> 2室用意
舞台裏部門	控室(小)(防音)	2階	20	<ul style="list-style-type: none"> 控室(小)は、ホールの楽屋専用機能に特化させる
	控室(小)(防音)	2階	20	
	会議室(中)(防音)	2階	35	<ul style="list-style-type: none"> 通常時は会議室として利用出来るように、壁面の姿見を格納できるようにする 一方は防音仕様とし、楽屋機能の充実に配慮する。
	会議室(中)	2階	35	
	会議室(大)	1階	80	<ul style="list-style-type: none"> 学校団体での発表会など団体利用の待機所としても利用できるように、舞台裏に近い場所に計画
	アーティストラウンジ	1階	35	<ul style="list-style-type: none"> 自販機、テーブル・椅子の配置
	楽屋事務室	2階	18	
	便所(舞台裏2階)	2階	25	
	便所(舞台裏、事務職員用)	1階	30	<ul style="list-style-type: none"> 舞台裏側にも多機能便所の設置を検討
	シャワー室	2階	18	<ul style="list-style-type: none"> 出演者利用のみだけでなく被災・緊急避難での利用を想定
	洗濯・乾燥機室	2階	10	
給湯室	2階	8		

	映像・音響調整室	2階	18	
	投光室	3階	30	
	搬入室	1階	100	■ (搬出入用)人荷エレベータ設置
	楽器庫・倉庫	2階	50	■ 舞台へ直接出し入れ出来るように舞台袖に隣接
	守衛室	1階	12	
	リハーサル室(防音)	1階	100	■ 舞台出演者がリハーサル後に直接舞台に行けるような動線に配慮する。(舞台直下に配置、階段でアクセスするなど) ■ ダンスサークルなど、一般利用も想定する ■ ミラー、レッスンバー
	音楽練習室(防音)、2室	1階	50	■ バンド練習などの利用。若者への利用を促すため、ピアノやドラムセット、アンプセット、録音機器などの機材を常備する
事務管理部門	受付・管理事務室	1階	70	■ 受付・管理のスタッフを配備。(基本的に事務機能の主体はエイブルに置く)
	給湯・職員休憩室	1階	20	
	事務倉庫	1階	30	
	託児・授乳室	1階	30	
	多目的ホール準備室	1階	50	■ 多目的ホールのイベントに利用する椅子やテーブル等を格納する倉庫、イベント開催期間中のスタッフ待機室を計画
通路・設備諸室	機械室	地下・屋上	450	■ 地下、屋上の配置を検討
	通路等	1～3階	1000	
その他	防災備蓄倉庫	1階	—	■ 近隣公共施設でのストックバランスを勘案して設置を検討する

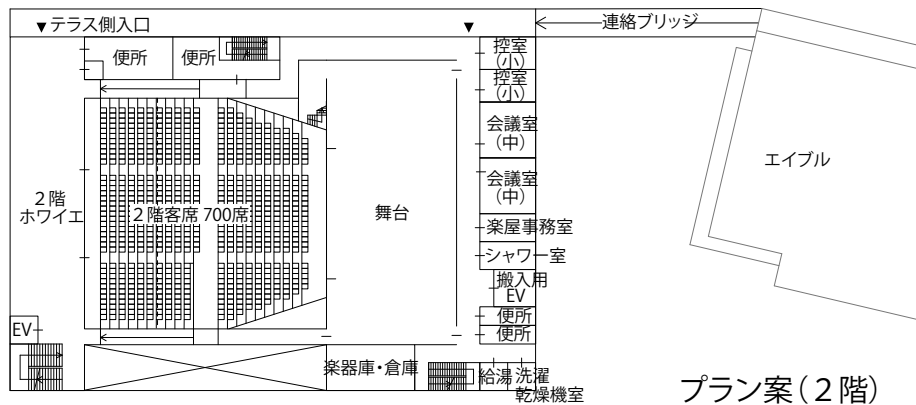
想定床面積合計

4,970 m²

※ 大ホールの音響性能：鹿島市出身者等で一流の音楽家や劇団などの公演を催すときにも十分応えることができるようなPAを整備する。



プラン案(3階)



プラン案(2階)



プラン案(1階)

図 1.8 新鹿島市民会館(仮称)のプラン案

1.2.6 事業費、事業手法の検討

工事費の統計例を図1.9に示す。ここで、参考文献は、「ジャパン・ビルディング・コスト・インフォメーション」（発行 一般財団法人 建設物価調査会）である。

標本データは、2010年～2012年に着工した新築物件のうち、市民会館等に該当する54件であるが、コミュニティセンター等も含まれるため、一定規模のホールを持たない物件もあると思われる。またホールの仕様・規模は不明である。

今回計画の市民会館は、ホール、舞台、展示施設等、ハイスペックな仕様となることが考えられるため表中点線で囲われた部分に該当することが予想される。

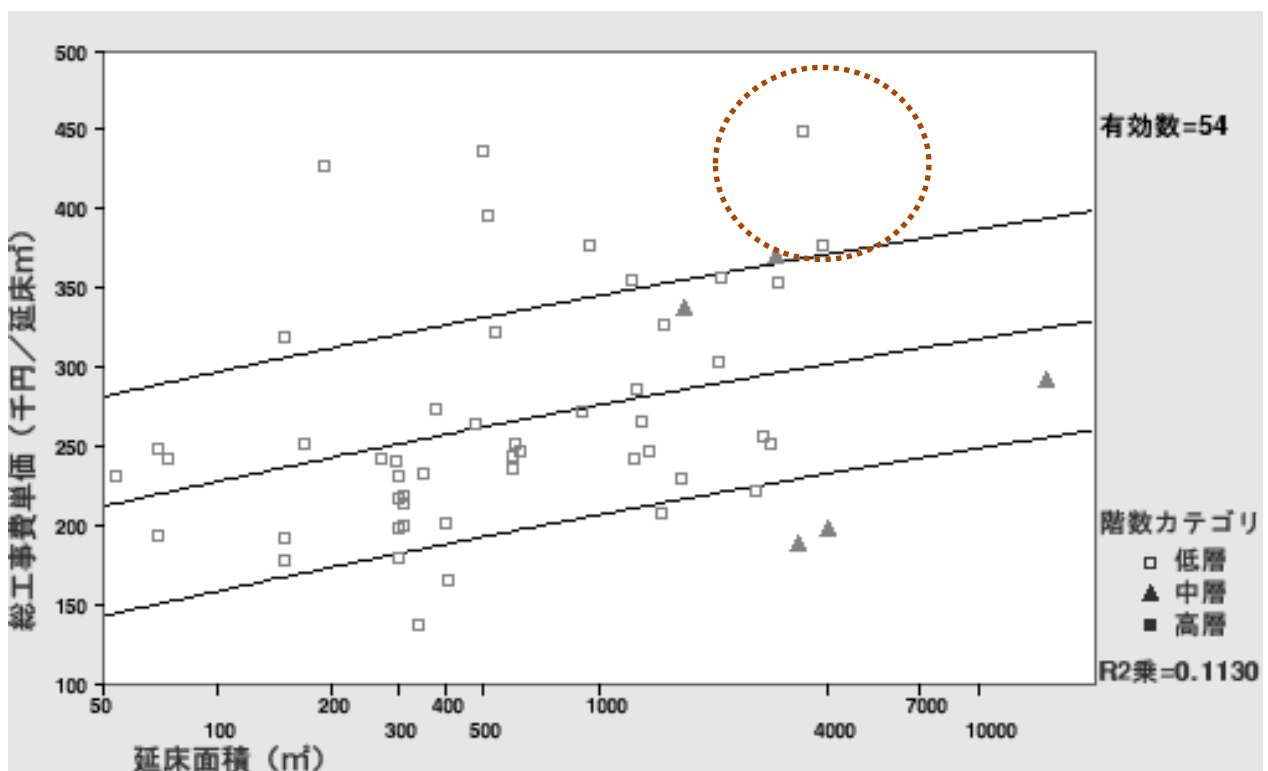


図1.9 建設コスト

建設コストの現状

新聞やニュースで報じられるとおり、震災復興事業の本格化、公共事業の拡大、不動産市場の回復等による建設資材の高騰、円安による輸入資材価格の高騰が顕著となっている。

鋼材、セメント、コンクリート型枠用合板などは25%～30%の値上がりを示し、逆に値下がりをした資材はほとんどないため、建設資材全体的には10～15%程度の上昇と推定される。

また、労務費においても「公共工事設計労務単価」は、2014年2月時点で、「普通作業員」が2012年比24.5%増、「鉄筋工」が同24.6%増、「型枠工」が同24.9%

増となっている。

公共工事の入札不調・不落が、平成 25 年度では 16.2%となっており、26 年度も高い比率となることが想定される。

この傾向は、震災復興事業や 2020 年東京オリンピック関連事業に引っ張られる形でしばらくは継続すると考えられるため、今後の検討課題となる。

1.2.7 課題への対応

事業実施に向けた課題としては、大きく 3 つ挙げられる。都市再生整備計画もしくは地方創生といった国の補助事業への採択、設計者の選定、建設スケジュールである。順にその対応（案）を示す。

（1）国の補助事業

国の補助事業としては、都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金）を中心とするものとして進める。

都市再生整備計画事業は、「地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るための制度」である。その目的は、地方都市の既成市街地等において、既存ストックの有効活用や施設の再配置を図りつつ、地域の中心拠点・生活拠点を形成し、持続可能な都市構造への再構築を図ることである。

交付金の交付を受けるためには、社会資本整備総合交付金の基幹事業の 1 つとして都市再生整備計画を位置づけ、国土交通大臣に提出することが必要である。交付期間は、概ね 3～5 年であるが、第 1 期計画の交付終了年度に実施する事後評価結果を踏まえ、第 2 期計画を作成することも可能である。

導入するには最も有効な事業制度であるが、鹿島市全体の計画を合わせて考えていく必要がある。また、求められる事項が年度によって変化する場合もあるため、例えば大ホールの機能や設備など、基本設計・実施設計の段階で調整していく必要があると考えられる。

（2）設計者の選定

設計者選定は、本計画を実施に移す上で最も重要である。基本的には、その選定方法は、「人を選ぶ（プロポーザル）」、「案を選ぶ（コンペ）」、「金で選ぶ（入札）」が考えられるが、設計を金額で選ぶことは避けなければならない。設計は施工とは異なり、そこでいい設計ができなければいいものはできないからである。

コンペは、設計者にいたずらに負担をかけるという意見もあるが、むしろ建築家が

デザイン的に参加したくなるのはコンペである。建築的にも誇れる市民会館にしたいということであれば、新進気鋭の建築家やデザイナーの参加を促す意味で、一つの方法である。概ね基本の方向性は決まってきたので、デザインをコンペで競わせて選定するということも考えられる。ただし、どういう点でのデザインを問うのかを明快にすることが望まれるだろう。そして案を選ぶことになるので、技術的な可能性などを見極めることや、機能面との調整の可能性、コストコントロールなどが課題になる。

プロポーザルは、人を選ぶという意味では、実績や技術力がより重視されることになる。しかし、ホールや展示という点で言えば、どのような実績や技術力を問うのかという議論も必要であろう。

いずれにせよ、設計者に問うべき課題を設定する必要がある。それらは今後の議論に委ねられるが、基本的な施設内容はほぼ決まっているので、概ね以下の課題を提示するのが適切と考えられる。

- 1) 鹿島市の中心部を形成する新しい顔としての市民会館の外観デザイン
- 2) 文化の発信装置としてふさわしいホールや展示空間のあり方
- 3) 市民会館あるいは市民交流施設として維持管理しやすく優れた設備等のあり方

どの方式で設計者を選定するのか、優先順位を明確にし、判断が揺れないようにすることが望まれる。ただし、遠方の設計者だけでは細かい打合せが困難になるので、少なくとも県内設計事務所（もしくは市内設計事務所）とのJVを条件にすることも必要であると考えられる。設計者選定にあたっては、その判断ができる者が入った設計者選定委員会を設置し、公明正大に選定されるように考慮する必要もある。

(3) 建設スケジュール

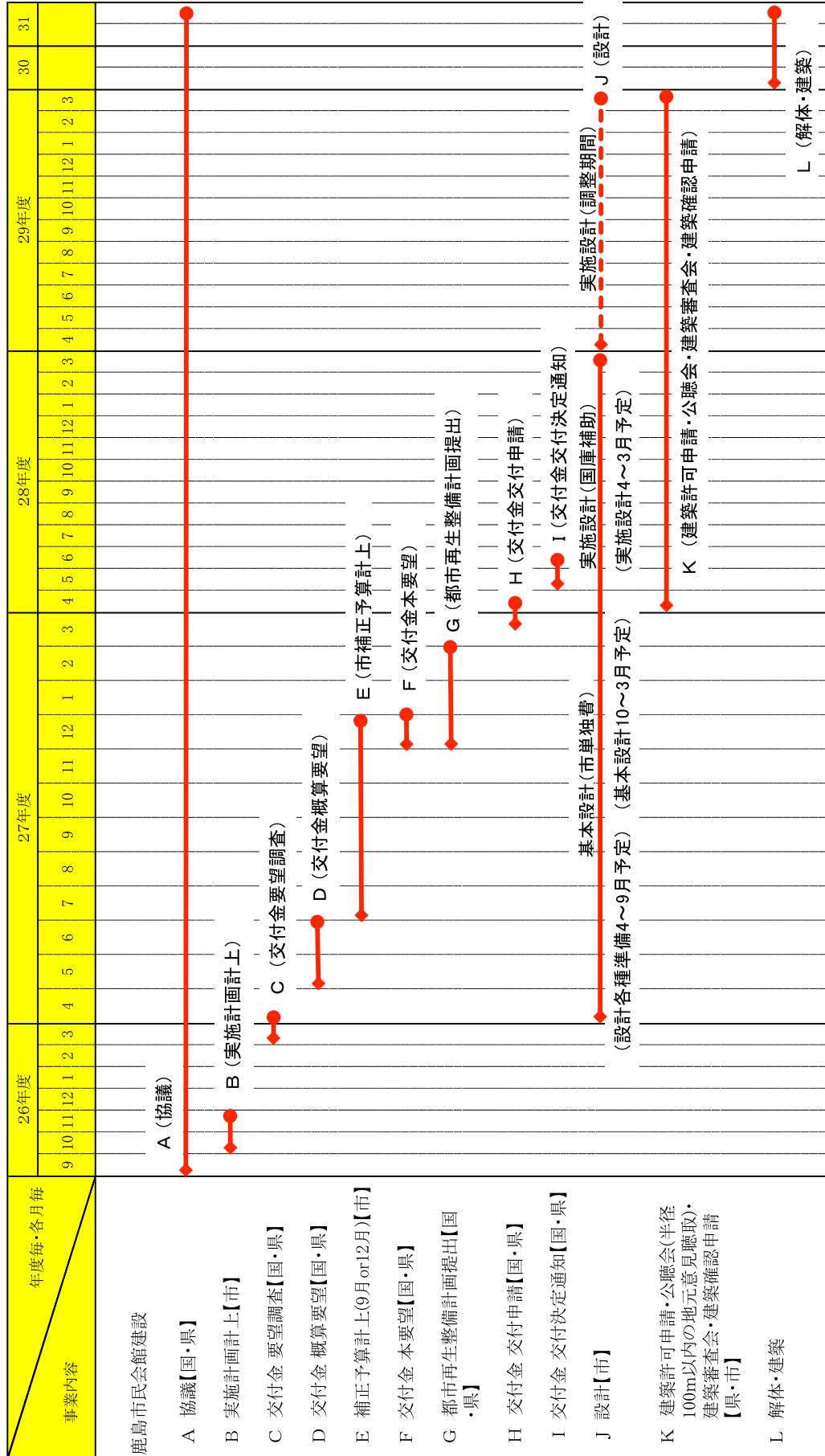
現時点での新鹿島市民会館（仮称）の建設スケジュールを表1.4に示す。

現在、本計画すなわち実施計画を策定中であるが、平成27年度当初から年内にかけて交付金に関する要望調査など交付金申請準備を行い、年度末に交付金申請を提出する。一方で、市単独費で新鹿島市民会館（仮称）の基本設計を行う。設計にとりかかるための各種調整は来年度の4～9月を予定する。そして、平成28年度に交付金の補助を受けて、実施設計を行い、平成29年度はその調整期間とする。

現鹿島市民会館の解体および建築工事は、平成30年度以降である。

表1.4 鹿島市民会館建設スケジュール予定【H26～31年度分：市予算・交付金・設計・工事関係】

H27.2.12時点



第2章 事業実施にあたっての条件整理

2. 1. 新規事業採択に係る必要条件

2.1.1. 実施に至った経緯

(1) 現市民会館の現状

現鹿島市民会館は、昭和29年～30年の鹿島市合併のシンボリック存在として建設が計画され、昭和41年に完成した。当時としては豪華な設備を誇り、文化の殿堂として威容を誇っており、これまで鹿島市民の交流の場、文化活動の発表の場等、鹿島市民の融和に大きな役割を果たしてきた。

しかし、ここ数年来は老朽化が進み、ホールにおける空調の効きの悪さや、音響の悪さなどの指摘が多くされるようになってきた。また、舞台の狭さ、客席の椅子、トイレの数などのほかに、バリアフリー対策、建築基準法の度重なる改正による既存不適格部分の未改修など、部分的な改修では追いつかない状態となっている。そして、多くの利用はある一方で、近年の市民交流の多様化に伴って現施設の機能は十分でないことも影響を及ぼし、市民からの建て替え要望も上がりつつある。そのようななかで、利用者数は横ばいかわずかに減少状況である。さらに、隣接地には生涯学習センター「エイブルホール」が整備されてはいるものの、客席数300席と収容人員が少なく、市民会館大ホールの代わりにはなりえない状況である。

(2) 鹿島ニューディール構想から鹿島市民会館建設研究会へ

平成23年度から平成24年度にかけて行われた「まちづくり懇話会」の中で「鹿島ニューディール構想」が示された。そして、優先的に対応しなければならない公的施設に鹿島市民会館がテーマとして取り上げられ、建替えについても色々な意見が出された。

そこで平成25年、市内の主要団体・利用団体、公募市民、学識経験者から鹿島市民会館建設研究会が組織された。そして、今後市民会館が必要か否か、必要ならばどのような位置付けを求めていくのかなど、建設の是非をはじめ、その役割や機能規模等について市民の視点から意見交換、研究が行われた。結論としては、「現鹿島市民会館を解体し、新たな施設を建設したい」という提案があった。

また、その敷地としては、公共機能が集中しており、歴史的にも旧鍋島藩邸が置かれた場所として、中心市街地の商業施設との密接な関係があるなかで公共施設群が多く整備され、生涯学習センター・エイブルとの連動も図りやすい中川地区が最適な場所として提言された。

これらのことから、中心市街地全体として、鹿島市民のための次世代に向けた「市民交流」と市民視点での「防災活動」の場として本事業を実施することになった。

2.1.2. 事業実施上の課題への対応

(1) 建設市場の高騰

建設市場の高騰は、東京オリンピックの開催が2020年（平成32年）で5年後に控えており、現在、東京を中心とする関東エリアでの建設ラッシュが大きな影響を与えている。特に、職人のほとんどが東京に駆り出されており、ここ2、3年は地方都市における人手不足が著しく、地方でも建設費が高騰しているのが実態である。

対策としては、建設ラッシュがピークにあるこの2、3年を過ぎた頃に工事に入るのがタイミングとして考えられる。それが待てない状況であるとする、建設費の動向を見ながら極力コストダウンを図ることが望まれる。

(2) 市民の参加

本計画は、市民にとって長い将来に関わる事業である。したがって、市民全体が新鹿島市民会館（仮称）の計画・建設に対して何らかの形で参画していくことが望まれる。特に若い世代の人たちにとって貴重な財産にするためにも、思い入れを持ってくれることが望ましい。

したがって、特に実施段階などで市民が参加しやすくなるような工夫が今後必要になるだろう。それによって、鹿島市民が将来に渡って長く使い続けていく施設にしていくことが大きに期待される。

2.1.3. 社会経済情勢等

(1) 広域交通網の進展

鹿島市の広域交通網の整備状況を図2.1に示す。現在、有明海沿岸道路（福富鹿島道路）の整備が福富側から建設が進められつつあり、将来的には、本市と佐賀市方面への自動車での移動の利便性が高まることが予想される。

建設中の九州新幹線長崎ルート¹の武雄温泉駅、嬉野温泉駅までは30分以内でアクセス可能となる。

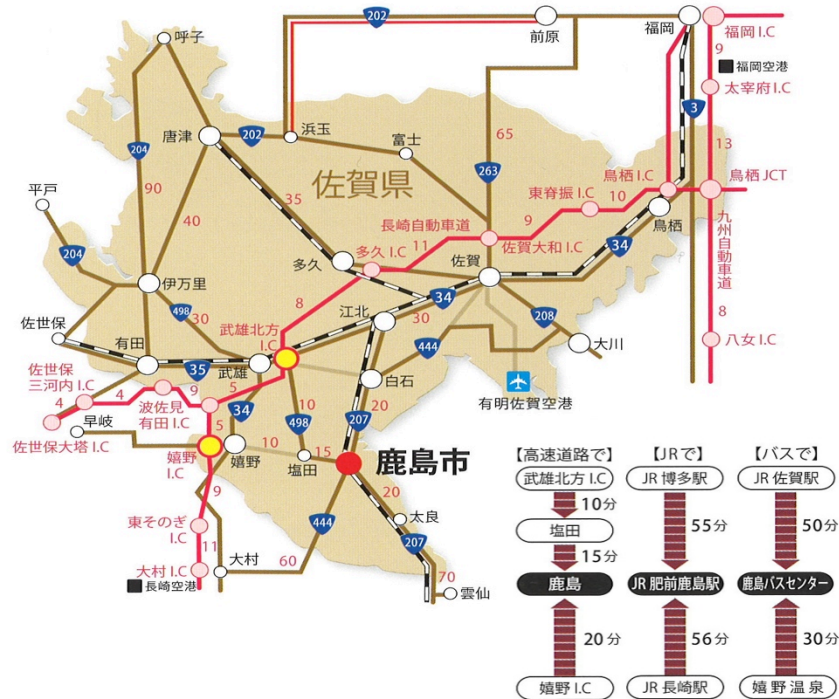


図 2.1 鹿島市の位置と主要都市から鹿島市までの所要時間

(2) 少子高齢化と人口減少の進行

少子高齢化と人口減少の進行は、東京・大阪や九州では福岡といった大都市への人口集中も連動し、地方都市ではますます進行することが予測されている。特に、高賃金を求める若者の就労機会は大都市に集中するため、働き盛りや子育て世代が地方都市から大幅に減る可能性は高い。

鹿島市における人口は一貫として減少傾向にあり、H2～H22 年の 20 年間で約 3,600 人、11%の減少である（表 2.1）。

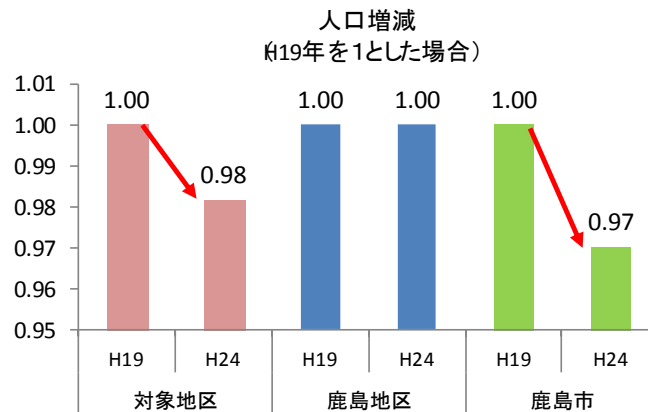
まちなか（城内、大手、東町、西牟田、新町、中牟田、横田を対象地区とする）の居住人口は、横ばいから微減傾向にある。市全体の人口増減と比較しても、減少率はほぼ同じで、まちなかの居住人口は減少傾向にあると分析される（図 2-2、図 2-3）。

そのため、就労機会や子育て環境の整備、低価格で取得できる住宅の整備促進などによって、その流れを食い止めることも求められている。

表 2.1 鹿島市の人口動態

	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
総人口	34,336	34,083	33,215	32,117	30,720
年少人口 14 歳以下	7,242 21.1%	6,605 19.4%	5,769 17.4%	5,148 16.0%	4,562 14.9%
生産年齢人口 15～64 歳	21,598 62.9%	21,035 61.7%	20,234 60.9%	19,188 59.7%	18,240 59.4%
老年人口 65 歳以上	5,496 16.0%	6,443 18.9%	7,212 21.7%	7,781 24.2%	7,891 25.7%
世帯数	9,288 世帯	9,670 世帯	9,818 世帯	10,030 世帯	10,050 世帯
1 世帯当り人数	3.7	3.5	3.4	3.2	3.1

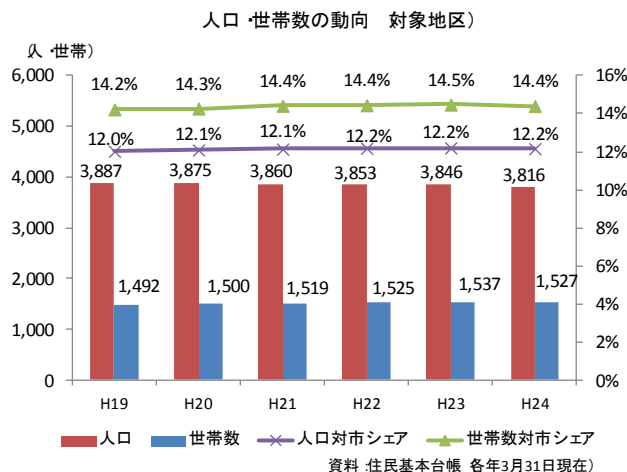
資料：国勢調査による



資料：住民基本台帳 各年3月31日現在

図 2.2 鹿島市の H19/H24 の人口増減の比較

対象地区：城内、大手、東町、西傘田、新町、中傘田、横田の計



資料：住民基本台帳 各年3月31日現在

図 2.3 鹿島市中心市街地の人口・世帯数の動向

鹿島市の昼夜間人口比率は 98.3（H22 年時点）で県内 7 位であるが、100 を下回っており、通勤や通学において、周辺市町に流出する人の数のほうが多い状況にある（図 2.4）。

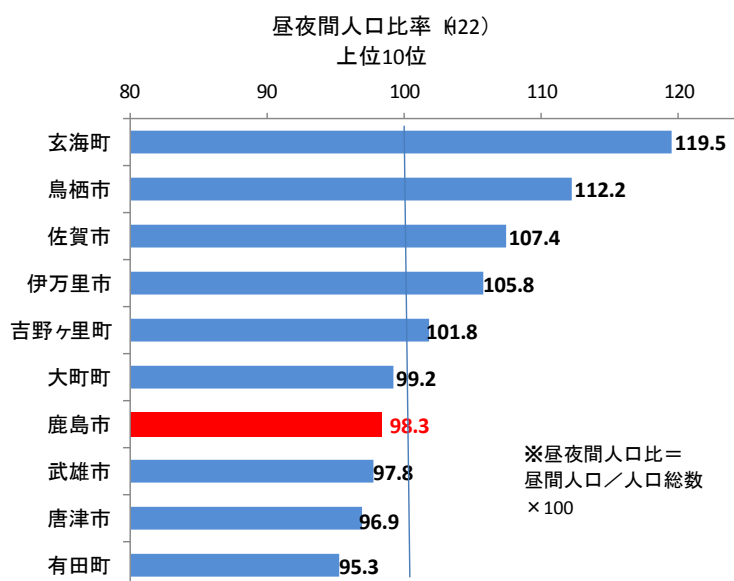


図 2.4 鹿島市の昼夜間人口比率
(資料：国勢調査 H22)

(3) 商業活力の低迷

中心市街地の商業動向としては、小売販売額、商店数が減少している。H19 に対する H24 の販売額は 2%減、商店数は 8%減である。鹿島地区の小売業は事業所・従業員数、販売額ともに市全体に比べ大きく減少している。また、空き店舗や空き事務所が増加している（図 2.5）。

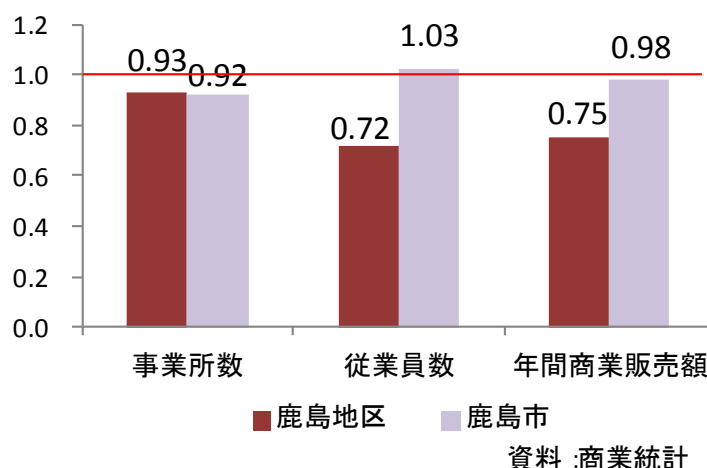


図 2.5 鹿島市の商業動向（平成 19 年に対する平成 24 年の割合）

2. 2. その他の条件

2. 2. 1. 地域の協力体制

(1) 協力組織

地域の協力体制の構築は、必要不可欠な条件である。

維持管理の組織については、鹿島市から指定管理者制度で管理委託することになる。これは、これまでエイブルで実績を積み重ねておりノウハウを有する一般財団法人鹿島市民立生涯学習・文化振興財団（以下、財団）が最も有力である。この財団を核にして、鹿島市文化連盟、JA さがみどり鹿島支所、鹿島商工会議所、鹿島青年会議所、鹿島市区長会、鹿島市観光協会、フォーラム鹿島、鹿島ライオンズクラブ、鹿島ロータリークラブ、市内各学校などの団体の協力を得ていく必要がある。

また、その中で年間行事を作成していくとともに、利用者ネットワークを拡充していくことが望まれる。

(2) エイブル利用団体からの要望

隣接する鹿島市生涯学習センター・エイブルが市民交流の場としても利用されている。このエイブルの利用をどのように広げていくかは、今回の事業の展開としても重要である。そこで、その利用者の声を拾い上げるために、エイブルの指定管理者である一般財団法人鹿島市民立生涯学習・文化振興財団の職員（特に「えいぶる事業」ホール・施設担当）および利用団体の要望をとりまとめた（表 2. 2）。これらの施設担当者・利用者の声が反映してこそ、真に市民に利用される施設になると考えられる。これらの要望に対して委員会で議論された提案についても備考として記載しておく。

表 2.2 エイブル財団職員と利用団体の要望

No.	要 望	備考（委員会提案）
1. ホールについて		
1-1	300人の収容人員のエイブルホールに対して、800人程度の大ホールを計画しているが、人口減少を想定した場合、県南西部・杵藤地区を利用者人口として考えて稼働率を上げることが望まれる。	地域における交流施設としても、運用上、活用を図ることを提案する。
1-2	椅子式のホールではできないパフォーマンスや、参加型のワークショップ、雨天時の野外イベントの代替えとして使用できる施設が、今の鹿島市には無い。（電気さえ残っていれば、ピオの地下1階にできるという意見もあり。）	大ホールの多目的ホール化もしくは、別に多目的室を設けることを提案する。
1-3	ホールの備品倉庫に隣接していて、格納式の小さな舞台があると良い。椅子は会議用のものを必要に合わせて並べる。ドリンク付コンサートもできるような、水洗いできる床が望ましい。	現計画で対応可能
1-4	楽屋は、出演者用駐車場（または楽屋口）から直接出演者が入れるようにする。	現計画で対応可能
2. 交流ラウンジについて		
2-1	交流ラウンジは展示だけでなく、無料コンサートなどができるよう、隣接会議室への音漏れがない様にしてほしい。文化祭やイベントでマイクを使うこともあると思われる。	コストの範囲内で対応することを提案する。
2-2	ダンスやスタンディングのライブができる、大きなスペースが欲しい。（2階交流ラウンジまたは大会議室）	コストの範囲内で対応することを提案する。
2-3	エイブルの音楽練習室は機能不足なので、控室兼用の会議室というより、音楽練習室にした方が良いのではないかと。楽器や機材もホールの倉庫から出し入れし易い。	コストの範囲内で対応することを提案する。
2-4	カフェテリアは絶対必要。できれば文具、コピーのコーナーがあると良い。Wi-Fiからのプリントサービスとかも？コマ割りをして安い出店でチャレンジショップを募集してもよい。	補助金との関係を整理して検討することを提案する。
2-5	喫煙室または、屋根と風よけのある喫煙スペースを各階に設ける。	現計画で対応可能
2-6	エイブルの多目的トイレの半自動ドアはとても使いにくい。軽い手動ドアか、スイッチ式の自動ドアが良い。	現計画で対応可能
2-7	階段、エレベーターは玄関から見えるところに設置する。モニター掲示板、自動販売機も。エレベーターは長机が入る奥行のもの。	現計画で対応可能
3. 地域住民が使いやすい施設について		
3-1	現状の市民会館(別館)の貸室は市役所主催の会議・選挙管理委員会(減免)などで利用される割合が多い。建て替え後もこの状況が続くのか確認が必要。	運用面で検討することを提案する。
3-2	市民交流・立ち寄りのためには、旧福祉会館1階で定期的に行われていた野菜・小物の販売、現在ある市民食堂・売店の発展的モデルとして、カフェ、コンビニマルシェも検討が必要。	補助金との関係を整理して検討することを提案する。
3-3	生涯学習センターができないものとして、「政治活動、宗教活動、物品販売」があるが、市民会館ではこれができるので、利用者にとって便利。今後も継続が望まれる。	補助金との関係を整理して検討することを提案する。
3-4	現状でも、エイブル、市民会館、市役所の駐車場が足りない。	実施設計時に検討することを提案する。
4. 新鹿島市民会館（仮称）とエイブルの接続について		
4-1	エイブルホールと現鹿島市民会館の2階での接続は、接続口が舞台袖すぐのところであり、エイブルホール開演中は現実的には使えないので、あまりメリットはない。委員会で意見が出たように、横にベランダ的なものを付けて、そちらで、いつでも人が行き来できるようにする。	整備する方向で実施設計を行うことを提案する。
4-2	鹿島市民会館（仮称）とエイブルが接続しても、エイブル事務局が一番遠いところにあるので使いにくい。鹿島市民会館（仮称）の事務室をエイブル寄りの1階にして、両館一括して管理。お客様も、図書館ではなく迷わず事務室に来られるように、分り	検討事項として提案する。

	やすい構造と表示をする。	
4-3	(参考意見) できれば今のエイブル 2 階事務室は廃止して、国道沿いをガラス張りにすれば、ディスプレイ、アピール、広報に利用できる。	管理運営体制も含めて検討することを提案する。
5. 空調関係について		
5-1	電力の供給は、将来不安定化が予想される。ソーラー発電による光熱費削減を図る。	基本設計・実施設計時に検討することを提案する。
5-2	ホールの空調、電気、消防装置(煙探知機)はホールでコントロールできること。(エイブルは事務所に配電盤があって面倒。)	基本設計・実施設計時に検討し、実施することを提案する。
5-3	各室の空調もアパートの空調のようにそれぞれ独立していて、すぐ取り換えができる方が良い。天井裏はシンプルに。必ずネズミが死んだりするので、人が入れるように。	基本設計・実施設計時に検討し、実施することを提案する。
6. 耐久性・メンテナンスについて		
6-1	デザインより耐久性・メンテナンスのやりやすさを優先。雨対策最優先。	現計画で対応可能
6-2	雨漏りしにくい、簡単な構造の大屋根、または屋上にしてほしい。できれば雨どいなしで、雨水が屋根の端から地面に流れ落ちるようにしてもらいたい。雨どい付近のコンクリートへの浸水、雨どいのつまりによる氾水は、施設の老化を早める。	基本設計・実施設計時に検討し、実施することを提案する。
6-3	窓は必ず網戸をつけてほしい。(夜、川風で涼しいのに、虫が入るので窓が開けられない。) 雨の日でも開けられるような充分なひさしを。また、もっと軽い材質で、上下別開閉ができるように。	基本設計・実施設計時に検討し、実施することを提案する。
7. 中川グラウンドの利用について		
7-1	野球場利用では、近隣に迷惑をかける(ファールボール)	現在は野球場自体が蟻尾山公園に別途整備されたため、野球場として利用されることは少ない。
7-2	特に未使用のときなど、中川グラウンドを駐車場として有効利用できないか。(現在の利用のほとんどがゲートボールである)	都市計画公園であるので困難であると考えられるが、都市計画審議会で総合的に検討してもらうことを提案する。
7-3	中川グラウンドのドクターヘリのヘリポートの活用については、現状のままでは砂埃が激しくてヘリが着陸できないし、風が強い場合はスペースが狭く、発着そのものが困難。新世紀センターや新市民会館で検討できないか。	今後の検討課題として提案する。

2.2.2. 事業の緊急度

昭和 41 年に建てられた現鹿島市民会館の建物は、今年 49 年目を迎え、老朽化とともに、諸設備の経年劣化だけでなく、様々な機能低下も目立ってきている。

舞台設備は、今日の時代に即した公演に対応できておらず、ホール機能としても脆弱で、楽屋、控室及びトイレ等も十分な状態とはいえない。

建築されて以来、手が加えられていない施設は、現鹿島市民会館を利用される方々にとって、安全、安心な施設といえず、次のような課題がある。

(1)客席部の天井の崩落対策について

天井の崩落により、各地で事故が発生するとともに、東日本大震災では少なくとも 2,000 箇所被害が発生したため、国交省は平成 25 年 8 月 5 日の告示で「つり天井 地

震対策」のガイドラインを出し、平成 26 年 4 月に施行されている。

(2)耐力度調査の結果について

- ① 鉄筋コンクリート造の構造体は、地震に対して「危険性が低い」との結果を得た。
- ② コンクリートの強度については、一部低強度部分があるが、全体では「満足している」との報告があった。
- ③ 中性化試験の結果ホール側においては、コンクリートの中性化が主筋まで達しているとの報告もあり、このまま放置すると、鉄筋が腐食して、その膨張のため、コンクリートのひび割れ・剥離が起り、構造物の性能が低下していくことになる。

(3)防火・避難上の問題点について

現施設は、既存不適格建築物として、建築基準法の適用を免除されているが、防火・避難上の不適格箇所がある。不特定多数の方が利用する公共施設としては、早期に、安全対策を講じていく必要がある。

以上からすると、建て替えもしくは耐震改修を緊急に実施することが望まれる。

2.2.3. 事業の重要性

本事業は、鹿島市が平成 24 年 6 月に策定した鹿島市まちづくり推進構想（鹿島ニューディール構想、以下「ニューディール構想」）に位置付けられているものである。

同構想は、鹿島市市制施行 60 周年を視野に、地域における中核都市としての復活を目指して、次期鹿島市総合計画（第六次、期間：5 年間）が終了する平成 32 年までに市民が一丸となって「進むべき目標」を明らかにするために策定されたものである。

ニューディール構想の柱は 4 本あり、1) 安全・安心のまちづくり、2) 交通体系の整備、3) 様々な施設の再整備（鹿島市シビックセンター再整備構想）、4) 産業振興からなる。そして、新鹿島市民会館（仮称）は 3) の「鹿島市シビックセンター再整備構想」において優先的に取り組む施策の 1 つである。なお、「鹿島市シビックセンター」は、市庁舎がある「中川コアエリア」を核として、ピオ周辺から JR 肥前鹿島駅周辺を「中心市街地サテライトエリア」として構成するとしている。

以上のことから、本事業は、次期鹿島市総合計画の目玉の施策であり、市民からも望まれている重要な事業である。

2.2.4. 取り巻く状況

(1) 鹿島市中心市街地整備改善計画

平成 26 年 12 月、鹿島市中心市街地整備改善計画が市議会に説明された。今後は、本計画の推進体制を整えていくことになる。その事業概要は表 2.3 のとおりである。

表 2.3 鹿島市中心市街地改善計画の事業概要

方針	目的	主要施策	事業区分	事業概要	事業実施時期		事業主体 連携主体	
					Step1 短期:3~5年程 度	Step2 中期:5~10年程 度		
1-1まちなかの魅力を高める機能配置	駅前交流拠点の形成	肥前鹿島駅舎の整備	提案	—	○トイレ、物販販売、コミュニティスペース、観光案内など利便性の高い駅舎の改修	→		市・県・JR九州
		駅前広場の整備	基幹	—	○乗り継ぎ利便性を勘案し、バス・タクシー乗降場、歩行者空間の整備 ○駅の玄関口にふさわしい修景整備(緑地帯、モニュメント等) ○イベント開催を可能とする広場空間の整備	→		市・県・JR九州
	商業・コミュニティ拠点の形成	市民交流プラザ(仮称)の整備	基幹	既存建築物活用事業	○物販をはじめ、飲食、コミュニティ・子育て支援・高齢者福祉などのサービス提供や異業種交流、市民交流の場として改修	→		市
	市民活動拠点の形成	市民会館の改築	基幹	高次都市施設	○市民の多様な文化芸術活動の場として老朽化した市民会館を改築		→	市
		市庁舎の耐震化	関連	高次都市施設	○市民会館、福祉会館、中川公園の景観整備に合わせ、耐震化。		→	市
		中川公園のリニューアル	提案	地域生活基盤施設	○中川公園の修景、サインの設置、ベンチや園路の整備、遊具のリニューアルなど、市民活動拠点としてふさわしい景観整備を図る。	→		市
	歴史・文化拠点の形成	旭ヶ岡公園の景観整備	提案	地域生活基盤施設	○旭ヶ岡公園について、歴史的修景、サインの設置、ベンチや園路の整備、樹木の維持管理等により歴史文化拠点としてふさわしい景観整備を図る。	→		市
防災拠点の整備	危機管理センター(仮称)の整備	—	—	○防災・防疫・災害対策本部、消防団本部機能などを集約し、危機管理センターとして整備	→		市・県	
1-2まちなかや市の魅力を発信するしくみをつくる		駅前広場等を活用したイベント開催	提案	まちづくり活動推進事業	○駅前広場・オープンスペースなど公共空間の活用(朝市、軽トラ市の開催)方策の検討	→		市・民間
		まちづくりガイドラインの策定	関連	まちづくり活動推進事業	○ハード事業と一体的に、中心商店街の商業者・市民が主体的に取り組む方針やルール、具体的な行動プログラムの作成(ワークショップによる意見集約など)	→		市・民間
		体験プログラムの開発	提案	まちづくり活動推進事業	○個人、企業、市民が一体となって特産品、歴史文化などの地域資源を掘り起こし、ユニークな体験プログラムを開発する。	→		市・民間
		WiFi通信環境の充実	提案	地域創造支援事業	○各拠点の主要施設にWiFi通信機器を導入、市民や観光客のインターネット利用環境を向上させるとともに、観光やイベント・まちづくりに関する情報を発信する。	→		市・民間
2-1まちなかを歩いて楽しむ魅力ある空間をつくる	人や自転車にやさしい歩行者空間の創出	国道207号の歩道拡幅	基幹	地域生活基盤施設	○まちなかへ至る主要動線の1つである国道207号の歩道拡幅を行い、安全かつ、ゆとりのある歩行空間を確保する。	→		県・市
		まちなか案内板の設置や歩道路面の改善	提案	地域生活基盤施設	○まちなか案内板の設置(5箇所):地域生活基盤施設 ○行き先・時間を示す歩道路面の美化化:地域生活基盤施設	→		市
		歩行環境整備の検討	基幹	地域生活基盤施設	○歩車共存道路の整備、自転車レーンの確保等の歩行環境の整備を検討する。	→		市・県・国
	まちなか駐車場の確保	市営駐車場の増設	提案	事業活用調査	○市営駐車場の改修等を実施する。	→		市
	生活交通手段の確保	循環バス・乗合タクシーの見直し	関連	—	○既存の循環バス・乗合タクシーのルート・ダイヤの見直しのための調査を実施。	→		市
	停留所の整備	関連	—	○循環バスの利便性を高めるため、循環バスの見直しに合わせバス停留所を整備(沿道施設の協力)	→		市	
2-2公共交通機関を活用する		回遊ネットワークの検討	提案	まちづくり活動推進事業	○まちなかの回遊性を高めるため、まちなかの拠点エリアや核的公園などを結ぶ散策ルート、案内板・歩道路面など回遊性を高める仕掛けづくりを検討(ウォークラリーイベントの開催など)	→		市・民間
		コミュニティサイクルの導入検討	提案	事業活用調査	○利用者ニーズを踏まえ、駅、公的施設、市営駐車場等の利用を勘案して乗り捨て可能な自転車利用サービスの提供を検討する。	→		市
3-1空き家の活用と良好な景観をつくる	空き家の有効利用	空き家再利用プロジェクト	提案	—	空き家・空き店舗の有効活用の検討(空き家バンク・空き店舗対策・リフォーム助成等による起業支援など)	→		市・民間
	連続性や一体性のある良好な街並み景観の形成	景観ルールの策定	提案	事業活用調査	○伝統的な家屋の保全・活用をはじめ、形態・色・高さなど地区特性に沿った市域景観ルールを策定。(景観行政団体へ移行。景観基本計画などを作成する。)	→		市・民間
	連続性や一体性のある良好な街並み景観の形成	景観まちづくり学習活動	提案	事業活用調査	○景観ルールの策定と一体的に児童・生徒を巻き込んだ街並み景観資源の再発見や通り・伝統的建物の保全・活用方策を検討する。	→		市・民間
3-2市民主体のまちづくりを進める	地域主体の環境改善	身近な公園・生活道路の維持管理(公園・道路サポーター制度)	関連	—	○道路・公園における清掃や植栽帯への植樹(花いっぱい運動)・維持管理	→		市・民間

(2) 鹿島市周辺における類似施設からみた状況

杵藤地区管内における類似施設の整備状況を図 2.6 に示す。杵藤地区管内には、全部で9つの既存類似施設がある。その中で最も大きいのは武雄市文化会館で1,380席、次いで鹿島市民会館 929 席、さらに嬉野市公民館で 748 席（一部可動）、スカイパーク（白石町）708 席である。それ以外は概ね 500 席で可動席も多い。

この状況から考えると、競合するような規模に下げることがあまり望ましくないと考えられる。

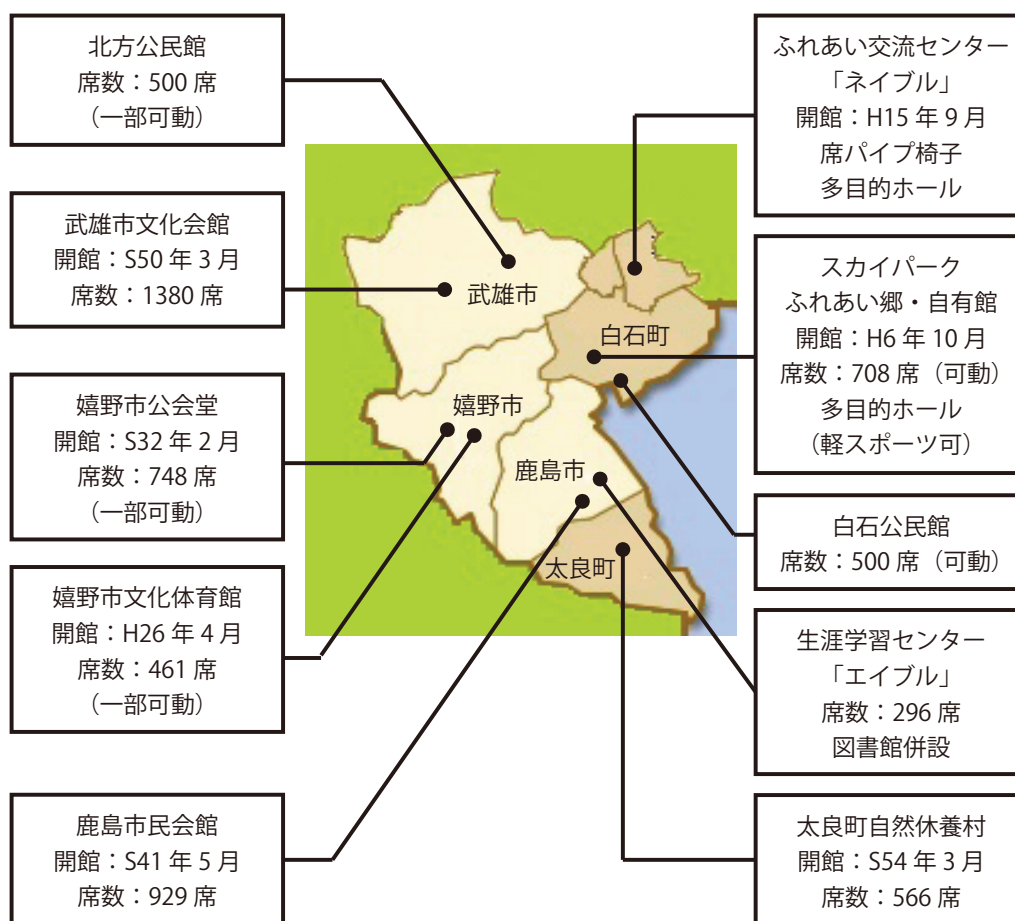


図 2.6 杵藤地区管内の類似施設

2.2.5. 利用状況

(1) 市民の利用状況

鹿島市の主たる市民活動には以下のものがあげられる。

- ・鹿島ガタリンピック(5～6月)
- ・鹿島おどり(8月)
- ・伝承芸能フェスティバル(9月)
- ・ふな市(1月)

- ・ 祐徳ロードレース(2月)
- ・ 海の森植樹祭(3月)

このような年間行事があるなかで、現鹿島市民会館の現在の使用状況は表 2.4 に示す通りである。平成 24 年度の実績で、ホールの利用回数は 79 回、利用者数は 22,785 人を数える。リハーサルを加えると、103 回、25,020 人である。年間の約 1/3 程度は利用されていることになる。うち、800 名を超える利用も年間 10 回程度を数えている。利用の内容も多岐にわたっている。年間行事のほとんどは市主催によるものであり、市民活動は年によって変化している。市民活動の多様化を伺うことができる。

表 2.4 市民会館大ホールの利用状況

市民会館大ホールの利用状況				
	300~500人利用	500~800人利用	800~1000人利用	年間実働利用回数 (リハーサル及び練習除く)
21年度	9回	17回	10回	36回
22年度	8回	9回	12回	29回
23年度	9回	12回	7回	28回
24年度	7回(2,150人)	15回(8,800人)	10回(9,600人)	32回(20,550人)
市 主 催 主 な 内 容	5月 囀託職員連絡協議会 100人	4月 消防団入退団式 600人	10月 ◎福祉の集い 1000人	上記回数には リハーサル及 び練習等の利 用数は含まれて おりません  リハーサル及び練習回数 ※24年度実績 47回(2,235人) ホールの年間 利用回数の総計は 24年度実績 79回(22,785人)
	5月 ◎戦没者追悼式 300人	8月 ◎同和講演会 500人	8月 ◎老人クラブ大会 900人	
	11月 ◎小学校音楽祭 400人	8月 ◎中学校サマーコンサート 500人	11月 ◎文化祭 900人	
		11月 ◎ひだまりコンサート 700人	3月 ◎みんなの集い 800人	
	1月 ◎成人式 500人			
そ の 他 利 用 内 容	6月 ◎社会保険事務説明会 400人	5月 開講記念(『ユージュとカオ』) 700人	6月 舞踊公演 1000人	
	9月 ◎食品衛生講習会 350人	8月 楽大事業(この子たちの夏) 600人	12月 個人演説会(今村候補) 900人	
	10月 伊能忠敬展 少年の夢 200人	8月 ◎JAさが年金友の会 700人	12月 個人演説会(伏串候補) 800人	
	11月 文化祭 400人	8月 中国雑技団 600人	2月 JA女性フェスティバル 900人	
		9月 ◎JAみかん生産者大会 600人	3月 社葬(東亜工機) 900人	
		10月 エイブル事業(満月の人よ) 500人	3月 赤門コンサート 1500人	
		10月 ◎鹿島・鹿実芸術鑑賞 600人		
		11月 歌謡ショー(大川栄作) 500人		
		11月 ミュージカル(園児対象) 600人		
		12月 保育園祭 600人		

◎は、毎年開催行事

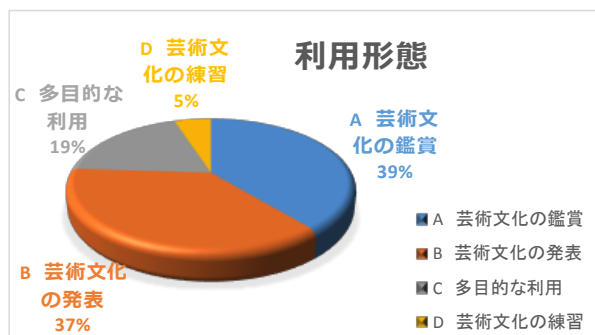
(2) 鹿島市民の要望

図 2.7 は、かしま市民立楽修大学学生に尋ねたアンケート結果である。これから見ると、600~800 席程度を希望している声が多く、次いで 800 から 1,000 席である。

かしま市民立楽修大学学生823人アンケート調査結果 (H24.11)

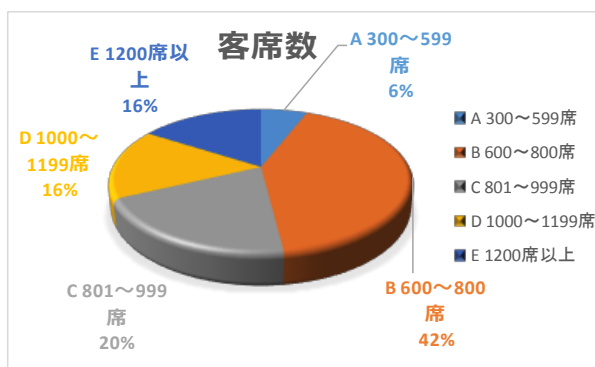
ホールの利用形態

A 芸術文化の鑑賞	39%
B 芸術文化の発表	37%
C 多目的な利用	19%
D 芸術文化の練習	5%
計	100%



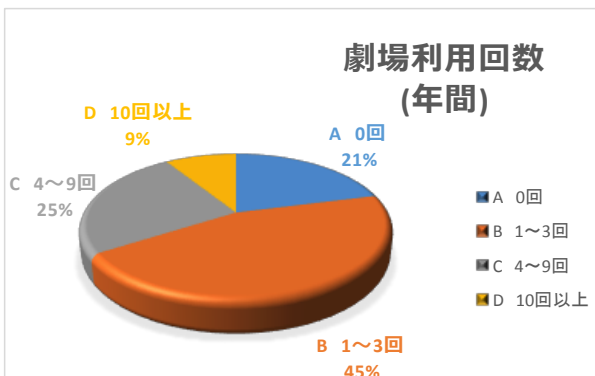
ホール客席数

A 300～599席	6%
B 600～800席	42%
C 801～999席	20%
D 1000～1199席	16%
E 1200席以上	16%
計	100%



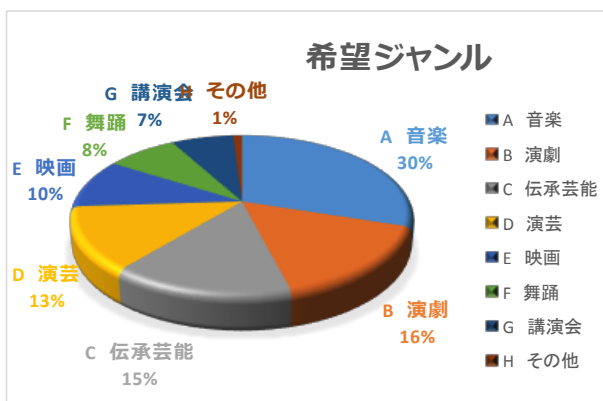
劇場利用頻度

A 0回	21%
B 1～3回	45%
C 4～9回	25%
D 10回以上	9%
計	100%



鹿島市民会館ホール希望ジャンル

A 音楽	30%
B 演劇	16%
C 伝承芸能	15%
D 演芸	13%
E 映画	10%
F 舞踊	8%
G 講演会	7%
H その他	1%
計	100%



このグラフは、平成25年3月～5月に「エイブルの木」に掲載されたものを基に作成 楽大生892名中、回答378名)

図 2.7 鹿島市民の要望

第3章 新規事業採択時の評価

3. 1. 事業計画の「必要性」「合理性」

3.1.1. 「必要性」について

事業計画の必要性について、第2章で分析した結果を踏まえて整理・総括すると以下のようなものである。

<現鹿島市民会館の老朽化から来る建替えの必要性>

- ・ 現鹿島市民会館は来年で築50年を迎え、諸設備の経年劣化だけでなく、多様化しつつある市民活動に対応できるものになっていない。
- ・ 客席部天井の崩落対策の必要性、コンクリートの中酸化による耐力度の低下の問題、不特定多数の市民が使用する建物としての防火・避難上の問題などを抱えている。

<市の施策方針等からくる必要性>

- ・ 本事業は鹿島ニューディール構想の1施策として位置づけられているものである。
- ・ 平成25年度に行われた鹿島市民会館建設研究会（中村雄一郎座長）で建設の是非について議論され、「是」という判断が下されたものである。

<中心市街地における必要性>

- ・ 市では平成26年11月「鹿島市中心市街地整備改善計画」を策定し、都市施設の面的整備及び改善事業についての検討を行っており、その中で、中川エリアは市民活動・防災拠点として位置づけられている。
- ・ 中心市街地全体の改善のためにも、商業交流拠点・歴史文化拠点・駅前拠点との連携による市民交流の活性化が必要である。
- ・ 本事業は、その核となる計画である。

<市民の要望からくる必要性>

- ・ 鹿島市民会館建設研究会の報告書にも示されているように、市民からも老朽化に対する懸念と、市民活動の充実のために必要という意見が多く出されているものである。

以上を踏まえ、市民会館建設検討委員会として、本事業計画は必要であるという判断を行った。

3.1.2. 「合理性」について

事業計画の合理性について、第2章での検討結果を整理・総括すると以下のように

ある。

<施設計画について>

- ・ 配置は、様々な角度からの検討の結果、生涯学習センター・エイブルとの強い連携が可能な配置（例：公衆用道路の一部廃止など）を提案し、合理性のある配置を検討した。
- ・ 大ホールを始めとして、施設全体が合理性を持つように、市民活動、市民防災などが全体として機能するように検討を行った。
- ・ 外観や材料などが華美な建築にならないように、施設全体の経済性と合理性を追求する。また、必要に応じて、大ホールへの可動席の積極的導入等を基本設計・実施設計を進める中で検討する。
- ・ 環境負荷なども考えて、今後は実施設計のなかで、建築設備面などの合理性についても詳細に検討していくことを予定している。
- ・ カフェテリアなどは、市として整備するのは市民交流の際の休憩において最低限必要な程度のもとする。ただし、運営上必要なものとして営業を行う場合には、指定管理者が限定した範囲のなかで行い、かつ補助事業の基本に則って適切に実施する。
- ・ 今後の負担などを総合的に勘案しながら、より合理的に計画を具体化する。

<市民合意>

- ・ 現在の市民会館は、これまで鹿島市ばかりでなく県南西部の中核的な施設として、地域のまちづくりに多大の貢献をし、市民に最も親しまれた公共施設であるといえる。
- ・ これまでも、まちづくり懇話会（H23～24）や市民会館建設研究会（H25）、市民会館建設検討委員会（H26）、市民アンケートなどでも、老朽化が進んでいる現在の市民会館の建て替えには大きな期待が寄せられており、市民の関心も高い。
- ・ また、これらの状況は、鹿島市議会の「鹿島ニューディール構想調査特別委員会」などの場において、随時、情報の提供と報告を行っており、新しい市民会館の建設という方向性については、市民に概ね理解が得られていると考える。

以上より、市民会館建設検討委員会として、事業計画としての合理性も十分にあるという判断を行った。

3. 2. 事業の今後

事業の今後としては、以下の通りである。

- ・ 委員会による計画の検討結果を市議会でも議論してもらい、今後のスケジュールを含めた承認を受ける。
- ・ 並行して、都市再生整備計画による補助事業に関して、市内部での都市再生整備計画の具体化、ならびに国・県との折衝などを行なう。
- ・ 市議会の承認後、市単費にはなるが、プロポーザル等についての検討を行い、設計者選定事業、建設の具体化に向けた作業を行う。
- ・ 設計者選定後、その技術提案の内容も勘案しながら、基本設計・実施設計を本格的に行う。
- ・ その際、建設検討委員会としても基本設計・実施設計に対する詳細な検討を随時行う。

資料編

1. 佐賀大学大学院都市工学専攻修士課程学生による提案作品
 2. 参考事例
 3. 建設費の参考事例
4. 鹿島市民会館建設検討委員会委員リスト

1. 佐賀大学大学院都市工学専攻修士課程学生による提案作品

平成26年度前学期、佐賀大学大学院工学系研究科・都市工学専攻修士1年（平成26年度入学生）を対象とする建築・都市デザイン特別演習Ⅰ（担当：教授・三島伸雄）のなかで、実際に応募されているコンペや短期設計などによる作品の制作を通じて、建築の社会性や現実の厳しさなどを実感し、応用力を磨くことを目的とする課題として、新鹿島市民会館（仮称）の代替案作成に取り組んだ。履修者は計10名であり、グループ作業で取り組んで以下の3作品（カッコ内は作者）が作成された。次ページ以降に作成された案を示す。

作品1：結いのカタチ（副田和哉、鷹取太洋、廣橋碧）

作品2：KH/KS（Tanachawensakul Tanaporn、宮野弘詩、福嶋有希）

作品3：鹿島市民会館・防災センター計画（内田大資、村上尊由、埋金卓司、時祐太）

なお、その日程は以下のとおりである。

- 01 (04/11) オリエンテーション
- 02 (04/18) 現地視察と資料整理
- 03 (04/25) 素案の作成
- 04 (05/02) 素案の作成
- 05 (05/09) 素案の発表

＜第2課題の作業へ＞

- 12 (07/04) 提案作成スタディ
- 13 (07/11) 提案作成スタディ
- 14 (07/18) 提案作成作業と議論
- 15 (07/25) プレゼン

→提出物：各自 A3 用紙 2 枚で提出

結いのカタチ

〈都市の面〉となる場の形成

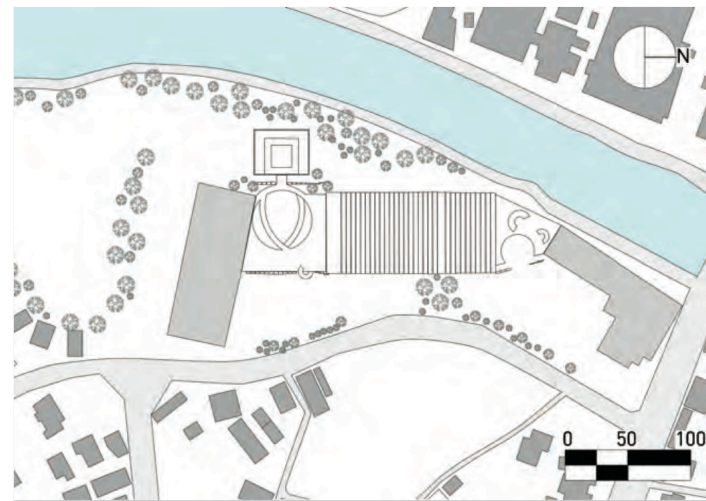
00. 問題意識

衰退する多くの地方都市は自身の都市のイメージを失っているのではないだろうか。都市のイメージは建築の群像によって生まれる。人々はその都市の建築を認識することによって都市を認識するのである。イメージの湧かない都市には人は寄り付かず更に衰退を重ねていく。これは建築というハードによって都市のイメージを創り出そうとするものである。



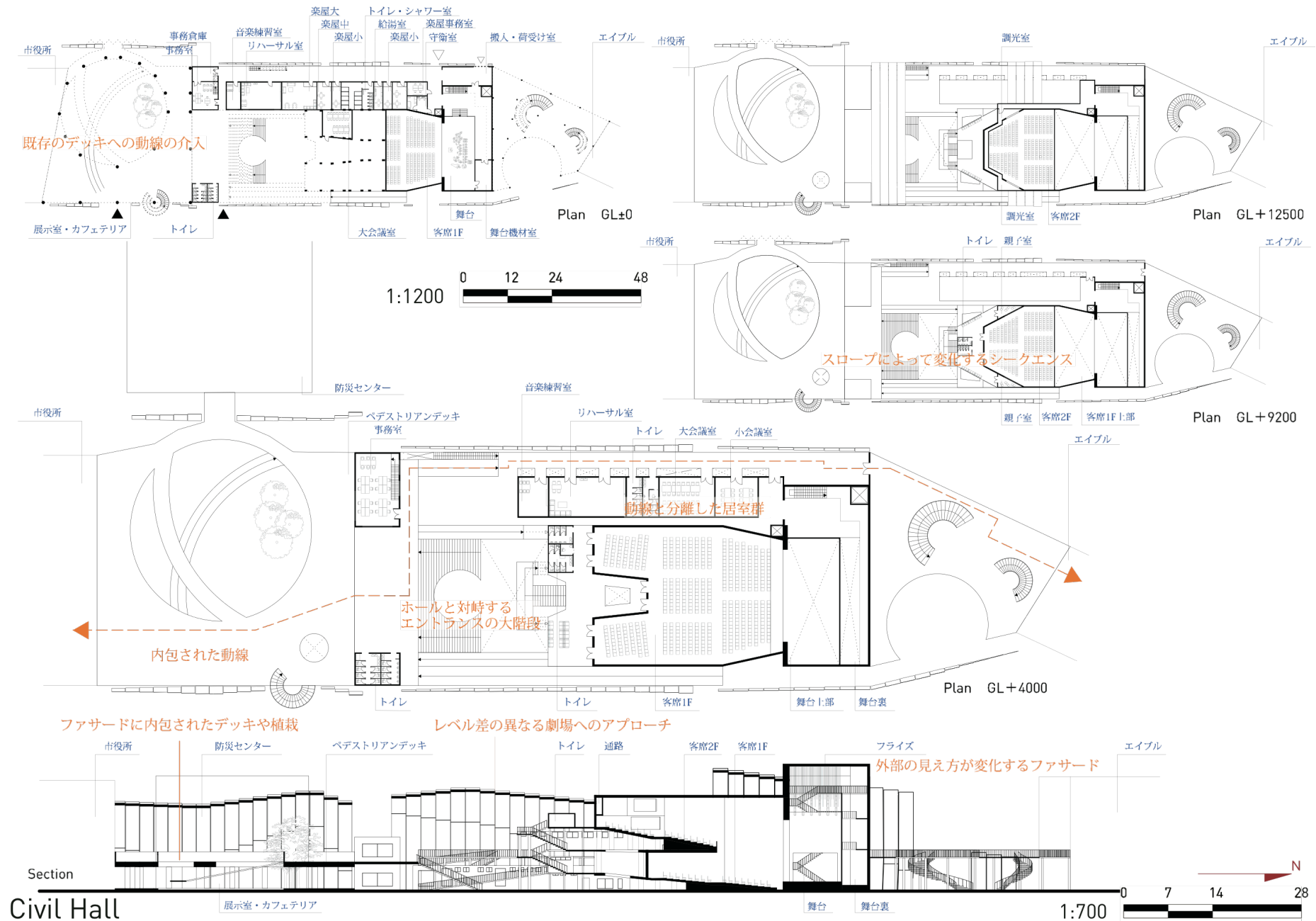
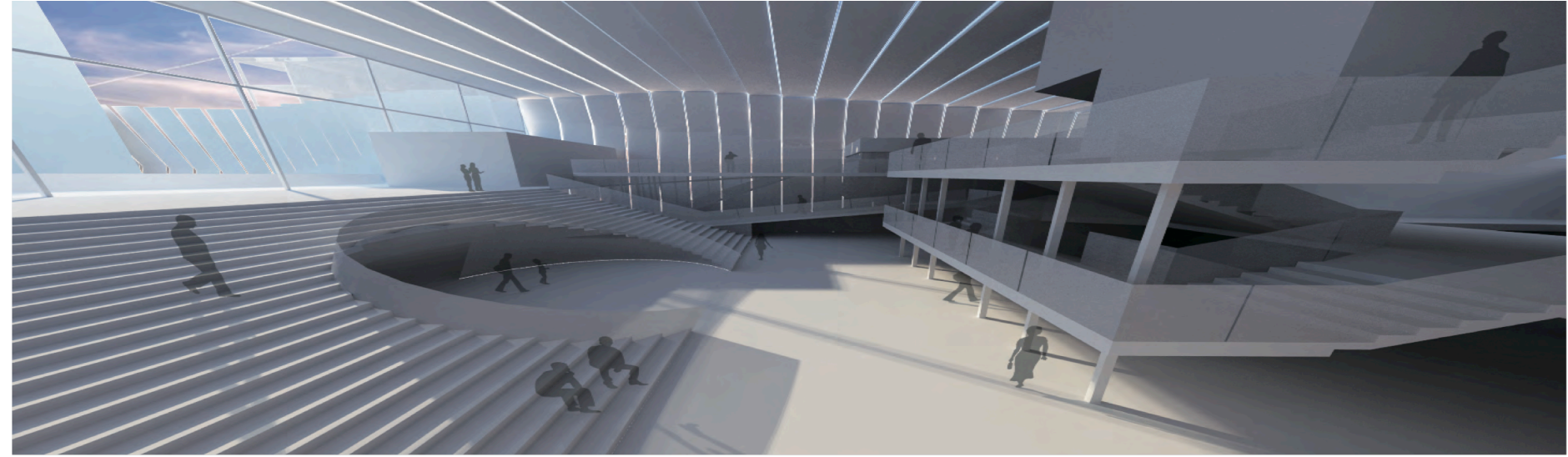
01. 施設整備による場所の位置づけと将来像

今回、市民ホール及び防災センターが計画される。この場所は既に市役所やエイブル(生涯学習センター)が存在しており、鹿島市において行政、市民活動の中心に成り得る場所である。本提案はこれら既存施設とこれから計画される施設を一体として考え、行政と市民が一体となった新たな鹿島市の顔になる「場」を計画するものである。



02. 設計方針とプラン

本計画では市民ホールの劇場部を市役所とエイブルの間に配し、それらを直線的に繋げるべく市役所前方の既存ペDESTリアンデッキを延長するようブリッジ状に動線を配置する。そしてこれらを1つのファサードによって覆うことにより、市役所・市民ホール・エイブルをひとつながりにみせるような、大きな壁を挿入し全体としての「場」を形成する。



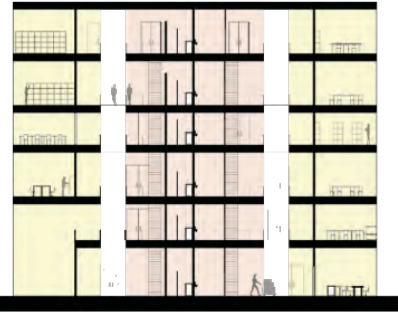
Civil Hall

03. 空間の特性

既存ペデストリアンデッキによるレベル差を利用し、ホワイトエ部分に大階段を設ける。この場所はホールとその他の空間を繋げる空間にも成り得、なおかつこの場所そのものが1つ大きな舞台のようにもなっており、観客として座っていた人々が見られる対象にもなり得るという主体と客体の逆転がおき両義性を持った空間となる。

04. 防災センター

防災センターはオフィス機能を主とする為、プランはセンターコアシステムを採用し、動線・構造・設備の単純化を図り効率的機能的な施設を目指す。集中コアの周囲に吹き抜けを配し上下階の視線の交流を意図し快適な職場環境を創出し行政の縦割りを少しでも緩和できればと願う。



05. ファサード

市役所とエイブルを繋ぐこの巨大な立面に鹿島市の祐徳稲荷神社の連続する鳥居や肥前浜地区の格子戸のような縦の線材が連続するイメージをモチーフとしたファサードを一行に配することにより、新たな鹿島市のイメージを創出する。ファサードを分割することで、全体のボリューム感を軽減する。またファサード内で起伏を設けることにより、視線を外へと促し立面を通して視線の受け渡しを行う。

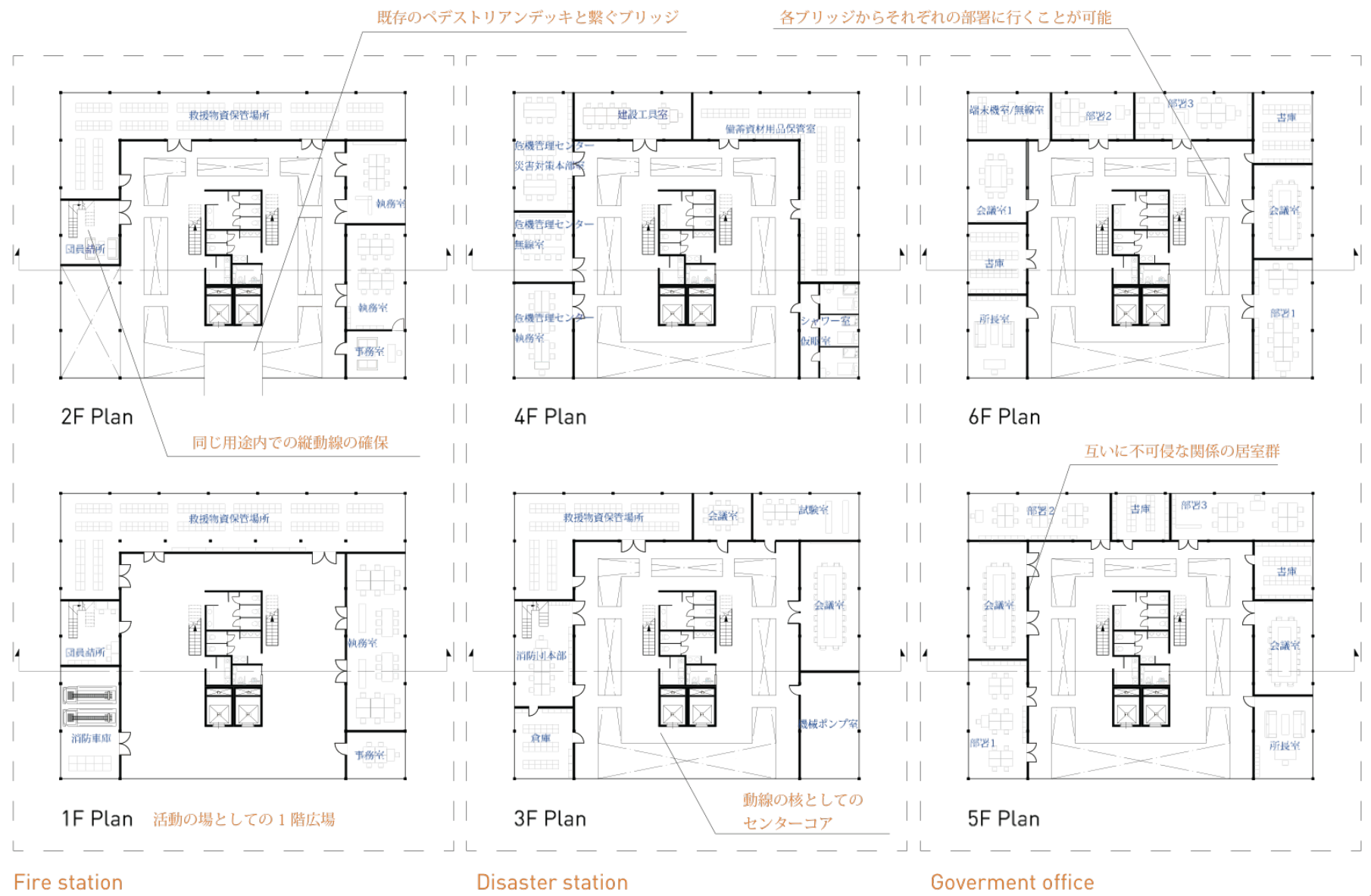
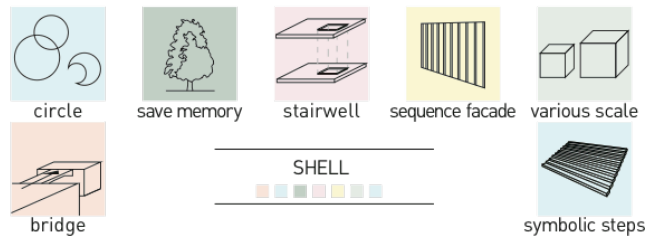


祐徳稲荷神社 / 連続する鳥居

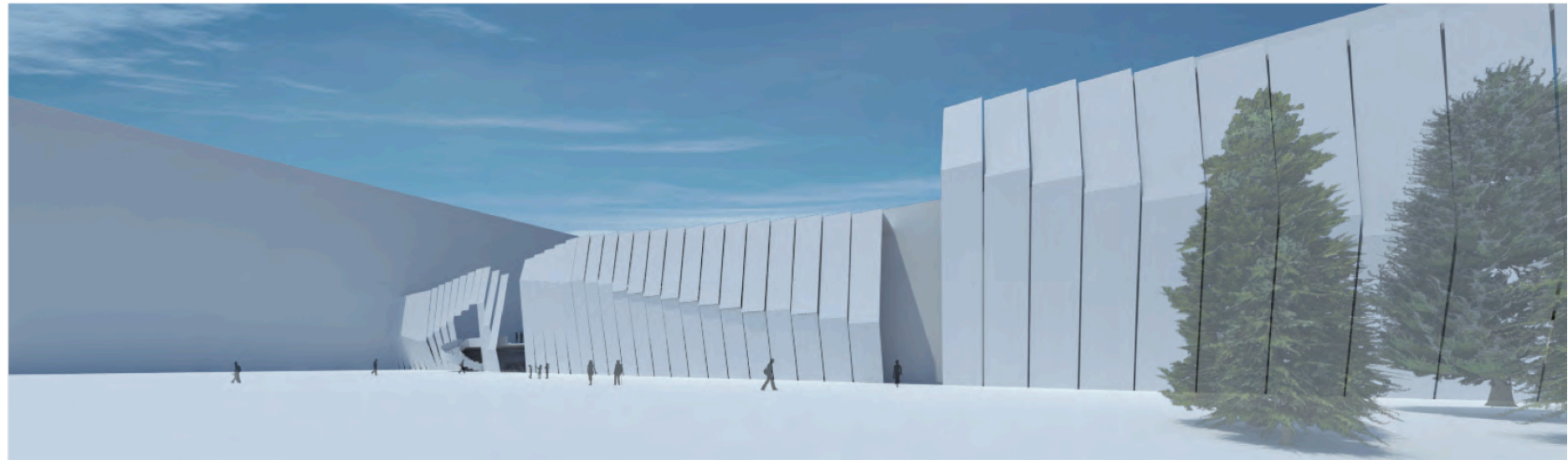
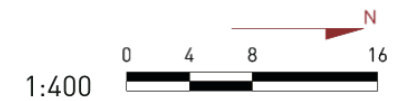
肥前浜地区 / 格子戸

06. 提案の応用性

本設計案は各々の「部分」の集合、「全体」への曖昧な統合を図ることで個々の空間アイデアを抽出し易くなるよう意図している。そうすることで今後進んでいくであろう実施設計に対し何らかの示唆になれば幸いである。



Disaster Prevention Center



作品 1

YVES
MIYANO
YUKI

KH

KS



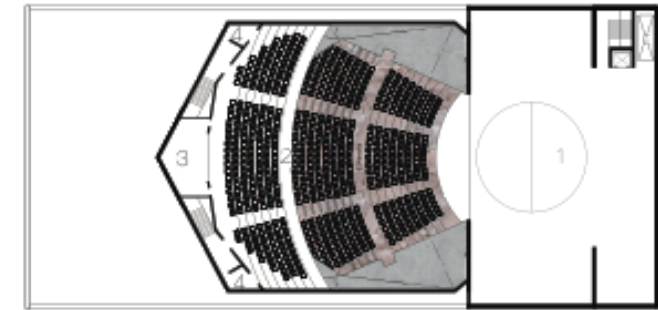
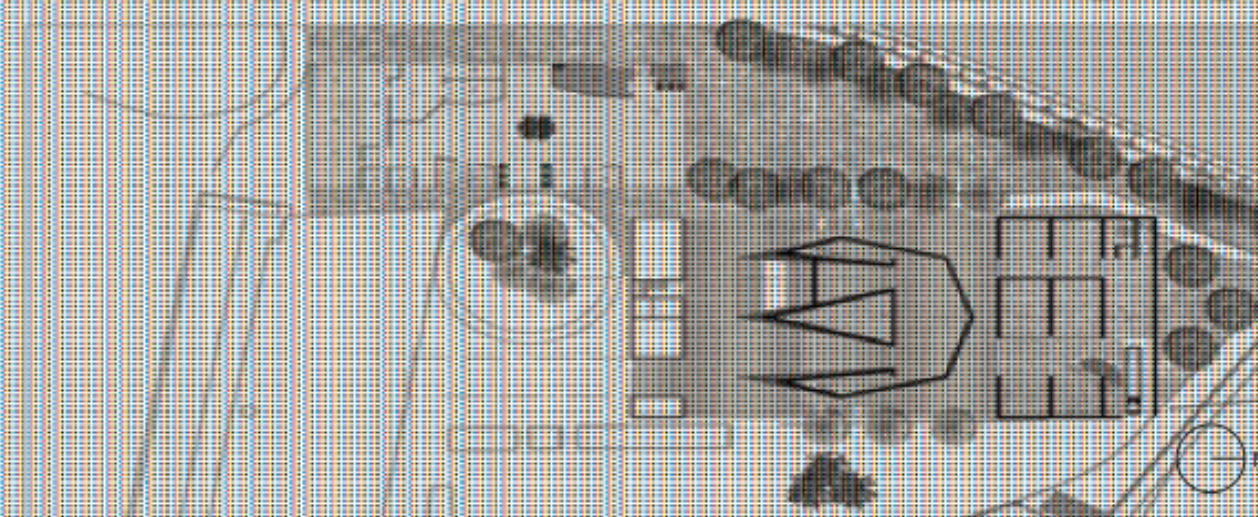
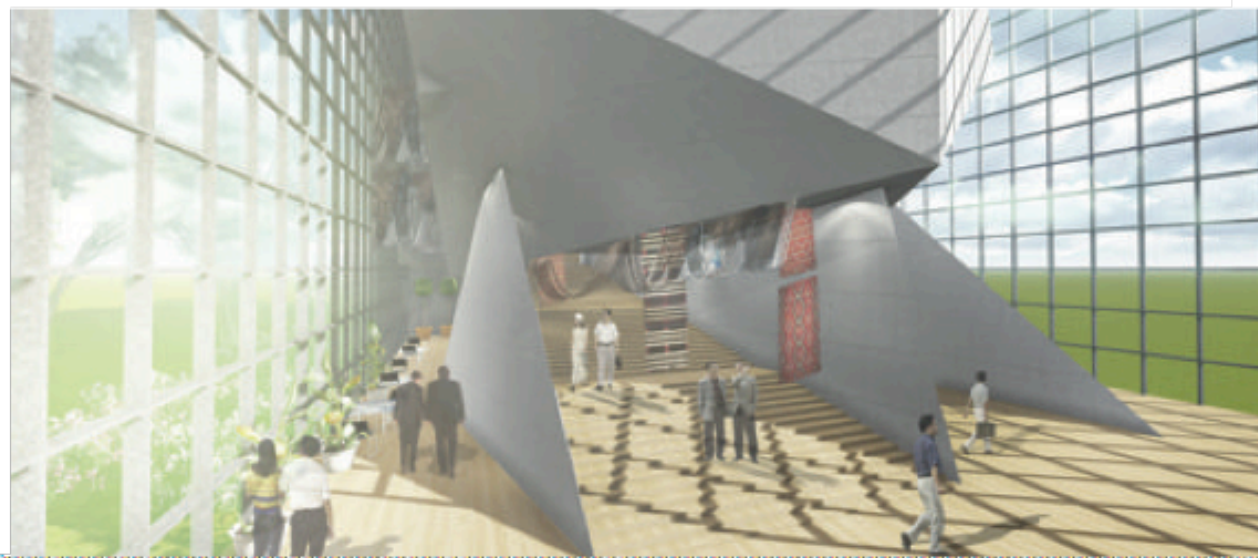
設計趣旨 / 織込まれていく形態と記憶

この土地の名産である鹿島錦は網代天井の織込まれた模様からインスパイヤされた織物である。かつて行われた「模様からフィードバックさせて形態を導き出す手法」を今度は三次元的な模様から建築のファサードや構造、空間を導き出すことを考えた。このような操作は、鹿島の新たなシンボルとして市民の心に記憶として織込まれ、かつて鹿島錦がそうであったように市民ホールもアイデンティティを獲得していく。

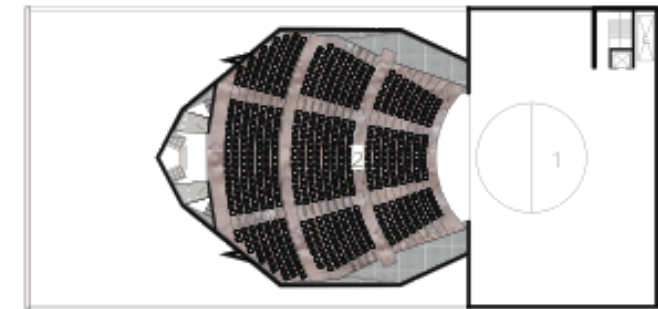


外部空間との接続

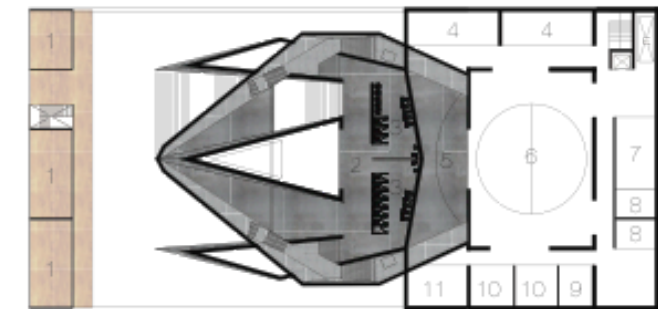
ホールとして使われないときでも、フリーマーケットやNPOなどの市民活動が行えるようにすることを提案します。具体的には1Fホワイエを東西に横断するように巨大な可動式の開口を設けます。市民活動の種類によっては開口を解放してポケットパークと一体的な利用が可能となります。またカフェには既存の円形広場へ向けた大開口を設けることで広場を有効的に活用することができます。



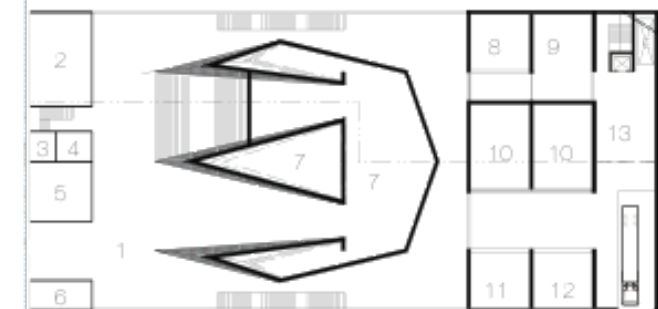
4F
1.ステージ 2.客席 3.設備室 4.観客室



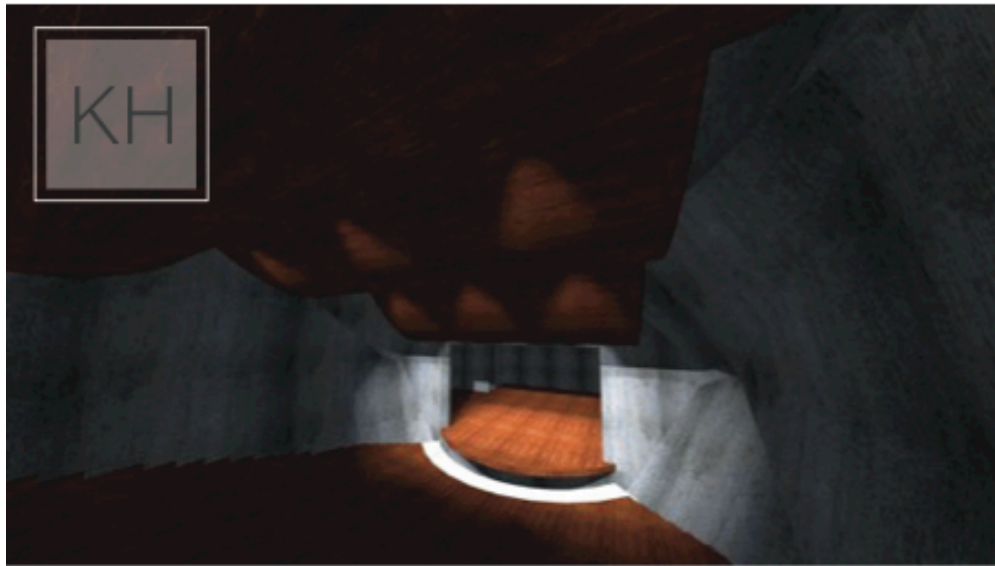
3F
1.ステージ 2.客席



2F
1.会議室 2.ホワイエ 3.トイレ 4.音楽練習室 5.オーケストラピット 6.空席
7.トイレ 8.楽器小 9.シャワー室 10.楽器大 11.アーティストラウンジ



1F
1.エントランス 2.カフェ 3.観客休憩室 4.事務倉庫 5.事務所 6.守衛室
7.展示室 8.倉庫 9.搬入・搬出室 10.リハーサル室
11.舞台機材室 12.電気・設備機械室 13.美術室

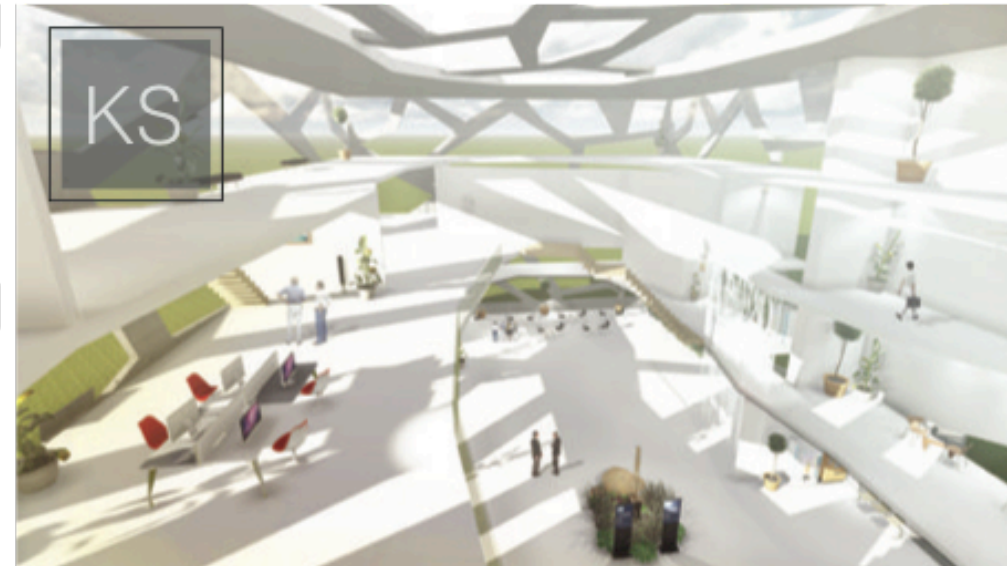


KH内観／閉ざされた三次元形態

ホール形態は折半構造による幾何学的な造形としています。このような形態を持つことで演目をダイナミックに印象付ける空間となります。

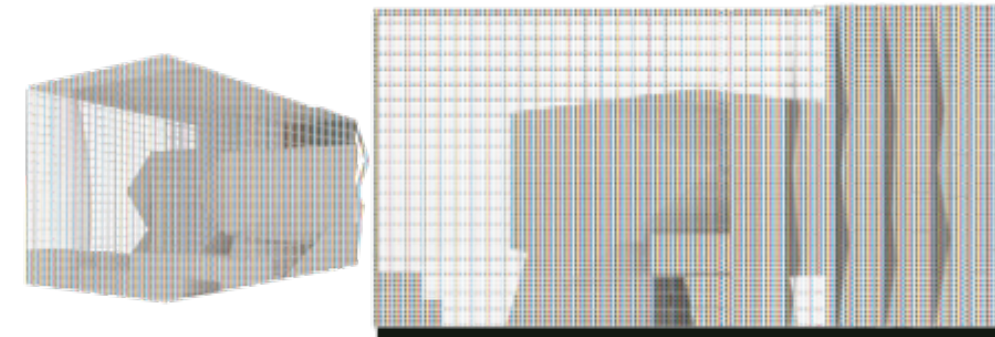
KS内観／開かれた三次元形態

一方で防災センターではホールとは対比的な操作で空間を決定しています。中心部には幾何学的な造形によって穿たれたような吹き抜けを形成し、開放的な空間としています。



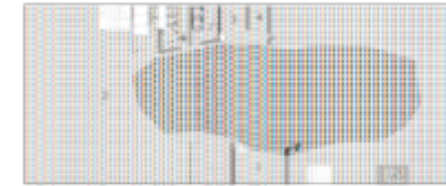
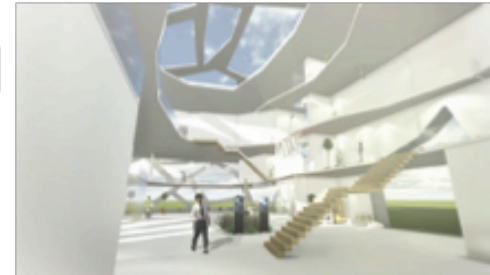
KH外観／織込まれる記憶

外観が目に見えて造形的であることは、鹿島市におけるシンボルとなることを意味しています。日常的に記憶に織込まれた建築は鹿島市の全民が共有する記憶を形成します。



KS外観／織込まれる記憶

防災センターの外観は現代だからこそ可能となった構造によって三次元的の模様を形成します。また内部の機能によって閉じる部分と開く部分で最適な開口を設け、採光を調整するためのファサードでもあります。



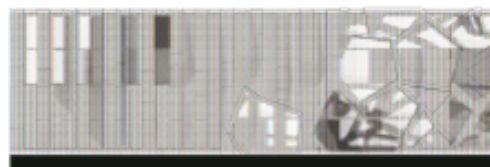
4F
1. 所長室 2. 農林事務所 3. 会議室 4. 更衣室 5. 書庫・倉庫 6. トイレ



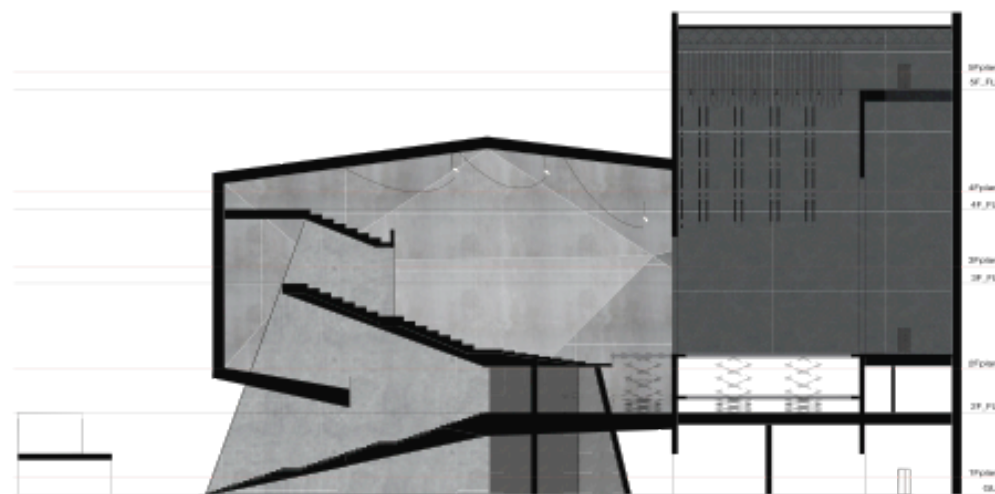
2F
1. 消防団本部 2. 仮設室 3. 建設資材庫 4. 調査資材用品保管室 5. 色検管理センター



2F
1. 風除室 2. 機械室 3. 集会室 4. 倉庫 5. 建設資材庫 6. 会議室 7. トイレ



1F
1. 風除室 2. 更衣室 3. 消防団庫 4. 団本部倉庫 5. 駐車庫車-その他車庫 6. 消防団本部7. 用品保管-調査資材庫 8. ボンブ室 9. 水防倉庫 10. 下水送風 11. 水送風 12. 上下水配材庫 13. 清掃室 14. デレメーター室 15. 検査室 16. トイレ

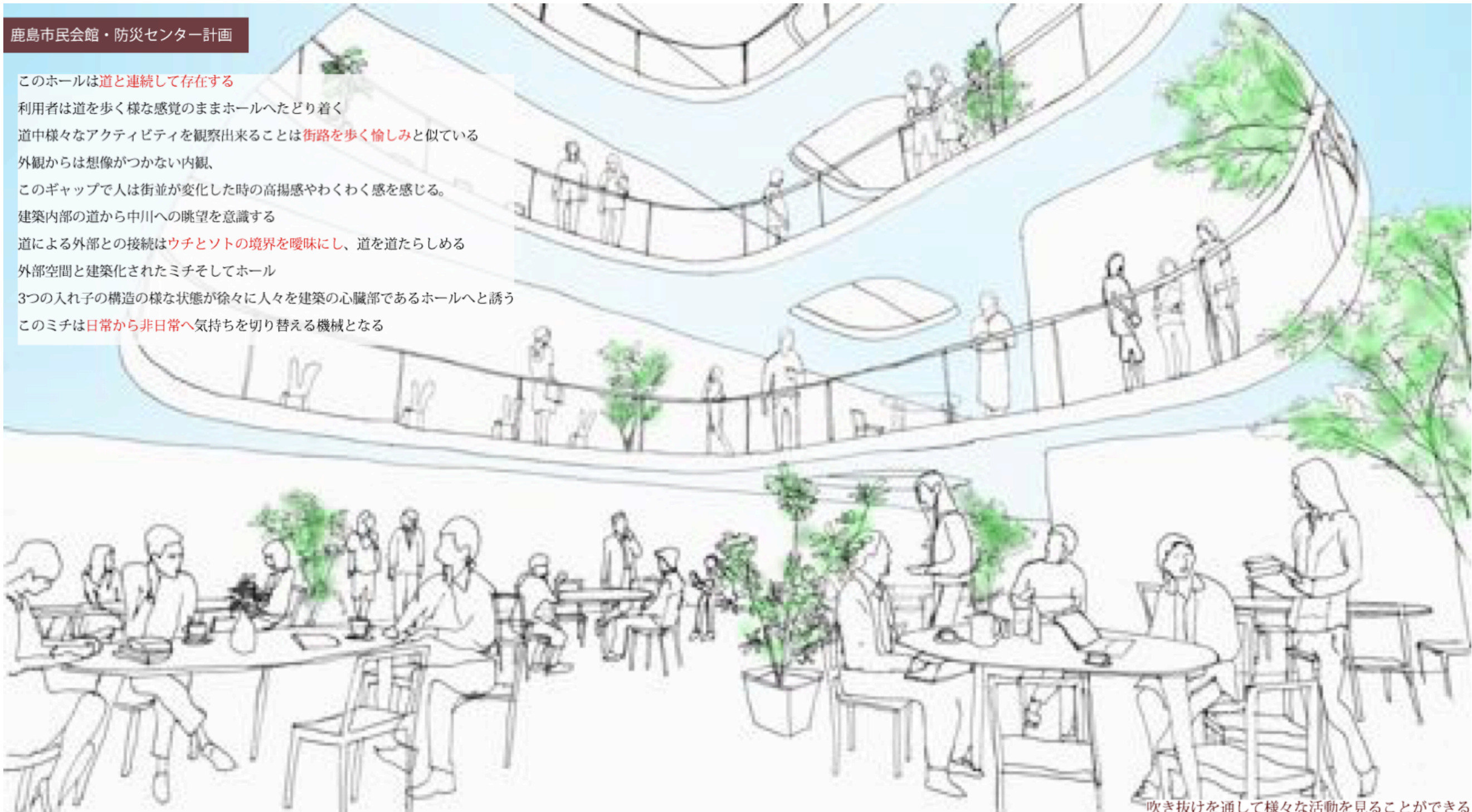


明快な動線による機能性・利便性向上

市民ホールを立て替えるにあたり、従来のホールより機能性・利便性を高めることを目指しました。具体的にはオーケストラピットや奈落を広く確保したり、上質な演奏を提供するためにシューボックスタイプに変形可能な音響反射板の設置、劇場や展示室への搬出入における利便性を向上させるために明快な動線を計画しました。

鹿島市民会館・防災センター計画

このホールは道と連続して存在する
利用者は道を歩く様な感覚のままホールへたどり着く
道中様々なアクティビティを観察出来ることは街路を歩く愉しみと似ている
外観からは想像がつかない内観、
このギャップで人は街並が変化した時の高揚感やわくわく感を感じる。
建築内部の道から中川への眺望を意識する
道による外部との接続はウチとソトの境界を曖昧にし、道を道たらしめる
外部空間と建築化されたミチそしてホール
3つの入れ子の構造の様な状態が徐々に人々を建築の心臓部であるホールへと誘う
このミチは日常から非日常へ気持ちを切り替える機械となる

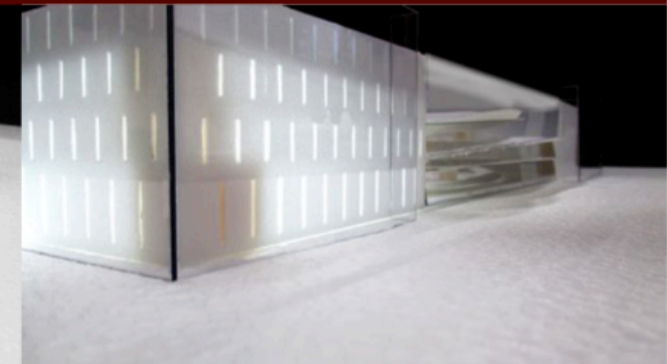
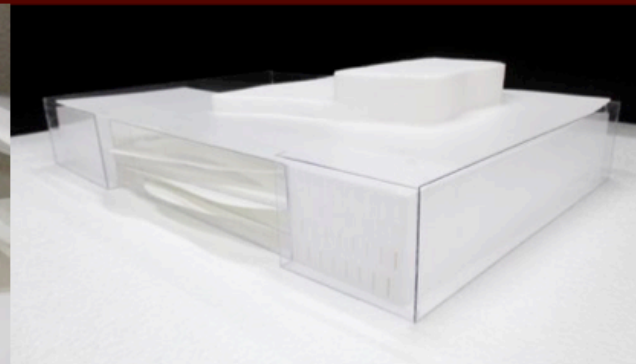


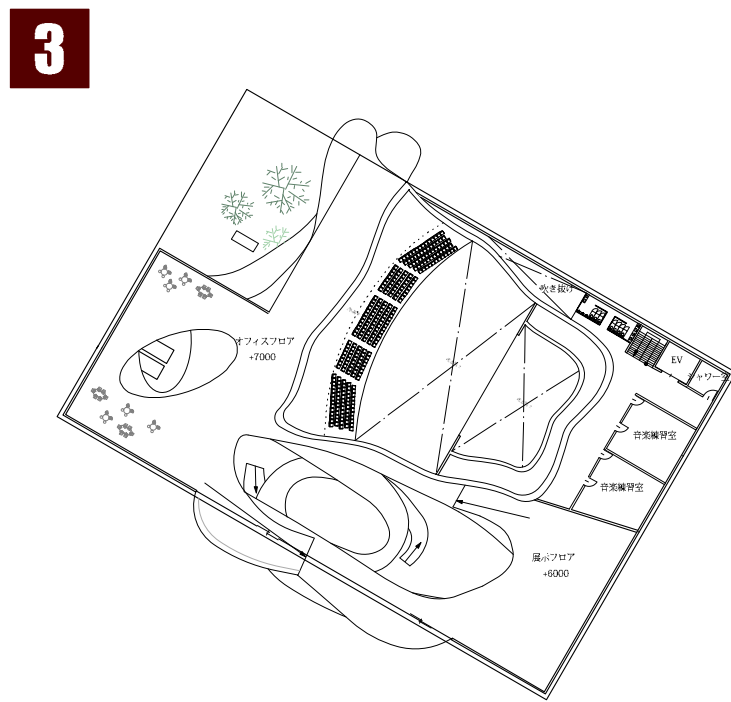
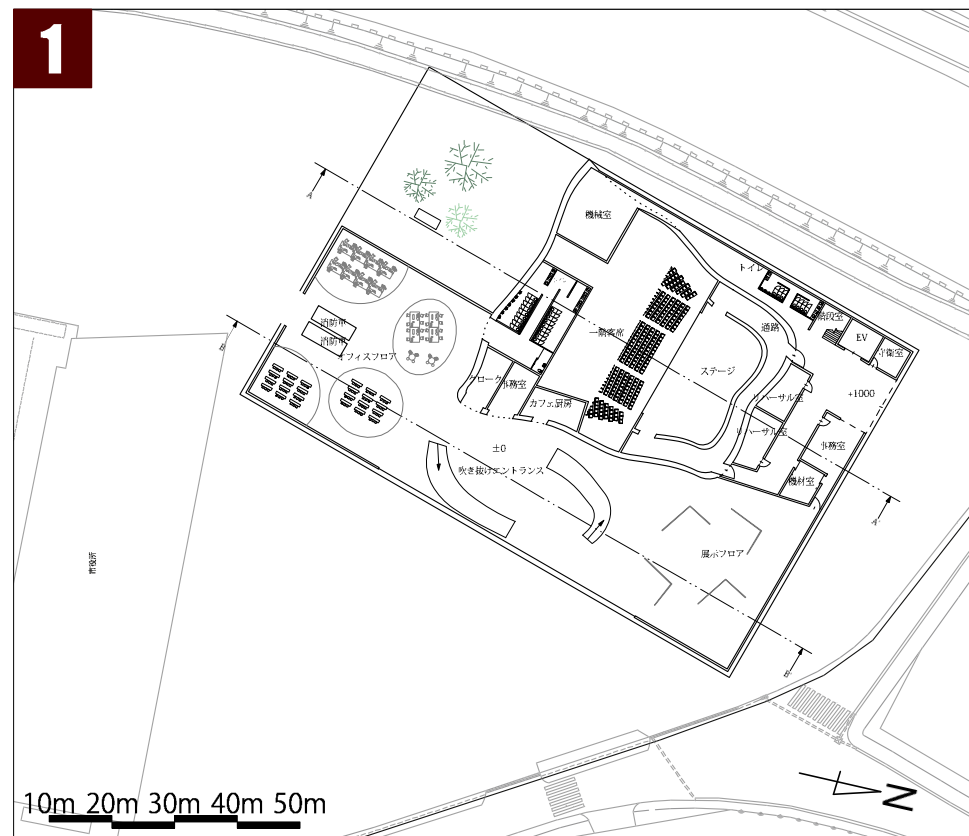
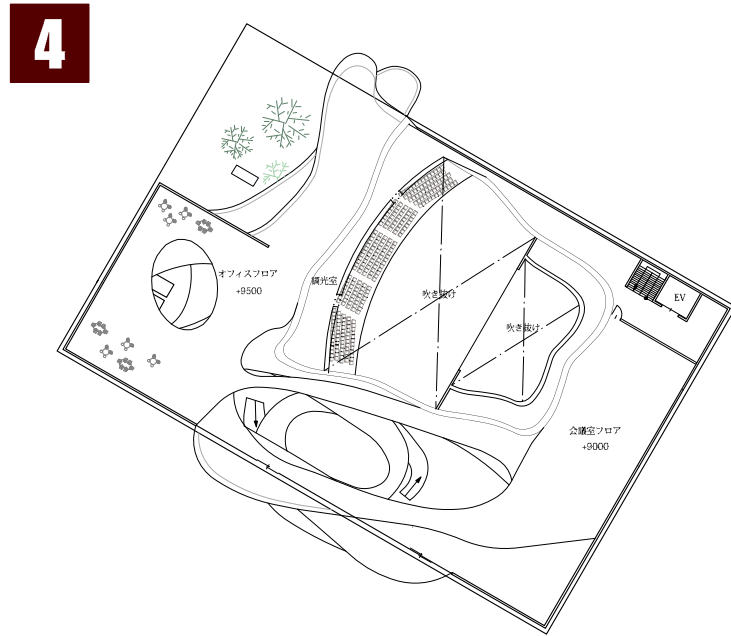
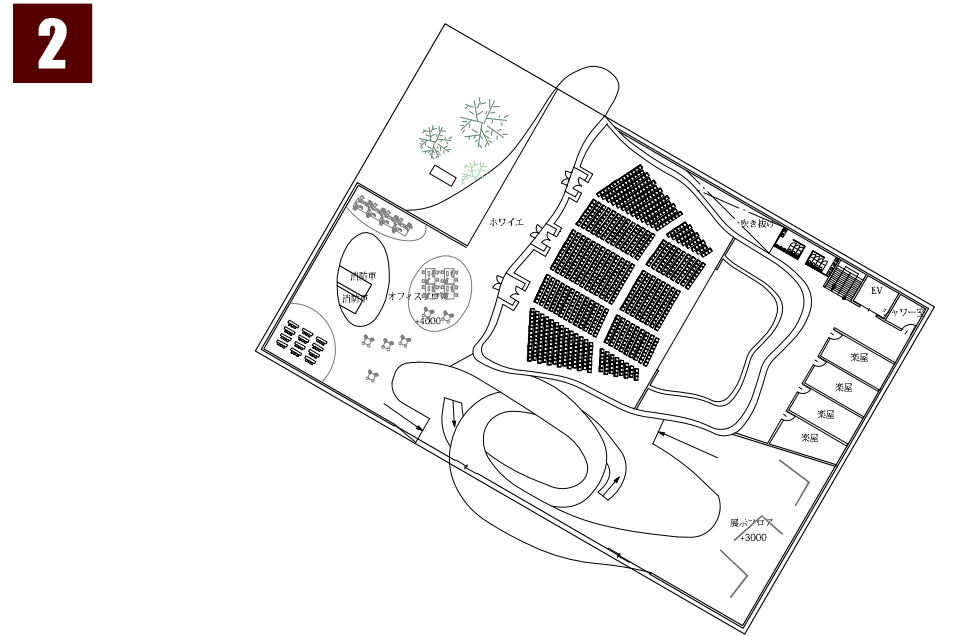
吹き抜けを通して様々な活動を見ることができる

Concept

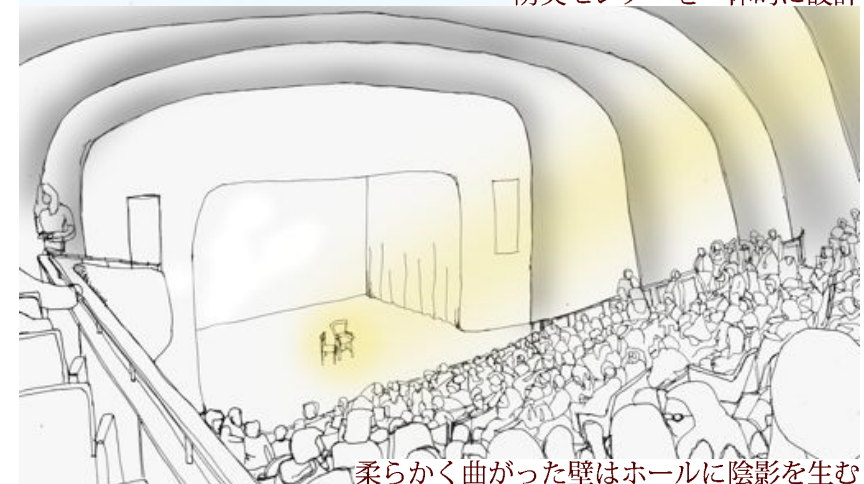


Model - スロープ・外観・ファサード -





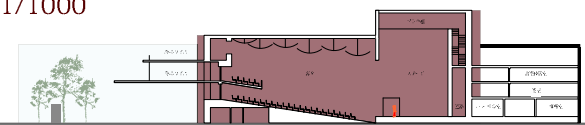
防災センターを一体的に設計



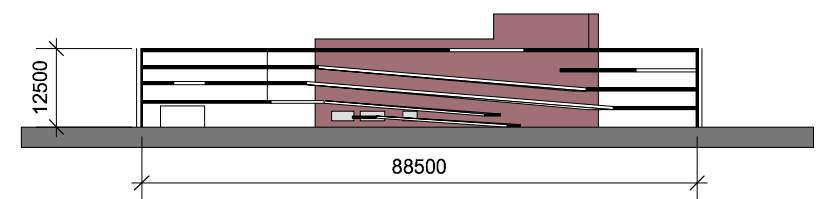
柔らかく曲がった壁はホールに陰影を生む

Section

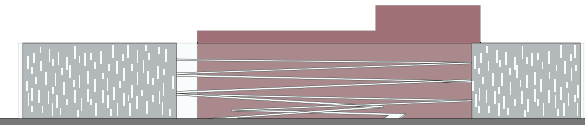
A-A'断面図 1/1000



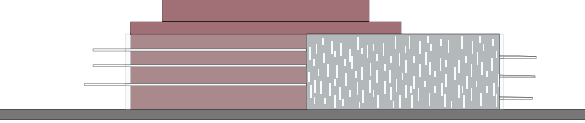
B-B'断面図 1/1000



東側立面図 1/1000



南側立面図 1/1000



2. 参考事例

都市再生整備計画事業の活用施設：多目的利用に特化した事例

参考事例：砂川市地域交流センターゆう（北海道）（出典：<http://www.you-sunagawa.com/index.php>）



写真：砂川市地域交流センターゆう 外観

① 大ホール：平土間を基本とした多目的ホール（可動席 500 席）

使用例：各種音楽会、コンサート、演劇、展示、パーティ



② ミニホール：リハーサル室の多目的利用（壁面鏡の収納、音響・映像機器の配備）

使用例：100 人規模の講演会、大ホールイベントの待機スペース、子ども用映画上映会



③ 研修室（大/中/小）：フレキシブル性の高い室配置（可動間仕切りの活用）

使用例：小規模サークル活動から、講習会、展示会など



④ 交流スペース（エントランス空間だけでなく、様々な活動を包含）

使用例：エントランスホール、イベントスペース、展示スペース、大ホールホワイエ



※以上は、新鹿島市民会館（仮称）の計画内容に関連する機能のみを抜粋

基本方針

(仮称) 三次市民ホールは、老朽化した三次市文化会館の代替施設として、また、多様化する市民の文化芸術活動に柔軟かつ的確に対応できる施設として、さらには、市民交流や文化情報発信など、新たな機能を持つ文化拠点施設として、三次市の中核となることが期待される施設です。

(仮称) 三次市民ホールの設計コンセプトは、次の3つです。

- 1 地上から5m持ち上げる
- 2 大回廊を設ける
- 3 空間を使いきる

■三次らしさと3つのコンセプト

(仮称) 三次市民ホールは馬洗川のほとり、願万地地区に立地します。三次市には江の川、馬洗川、西城川をはじめとする川が、市内全域を流れ、時に甚大な洪水を発生させながらも、古くからの舟運を原点としてまちが発達し、豊かな漁場や田畑を潤すなど、地域の発展に貢献してきました。

これらの川と共生していくため、三次が受けた洪水の経験を教訓に、防災の観点から生まれたコンセプトが「地上から5m持ち上げる」ことです。日常でも、洪水の時にも、安心して集まることのできる施設をめざします。

建物を人工地盤上に作り、その下は駐車場とします。洪水時には建物が避難所になり市民を守ります。また、日常的には、屋根のかかる駐車場として利用でき、同時にその空間が、広場のようにも使われることを想定しています。

二つ目のコンセプトである「回廊」は、文字通り市民ホールをぐるりとめぐっている通路的な空間です。

市民ホールの中を人々が自由に動き回ることのできる「回廊」は、三次市全体を川が流れるように、施設全体を市民が循環し、様々な文化活動の場をつくり、町の大きな寄合所のような空間を繋いでいくことができるものです。

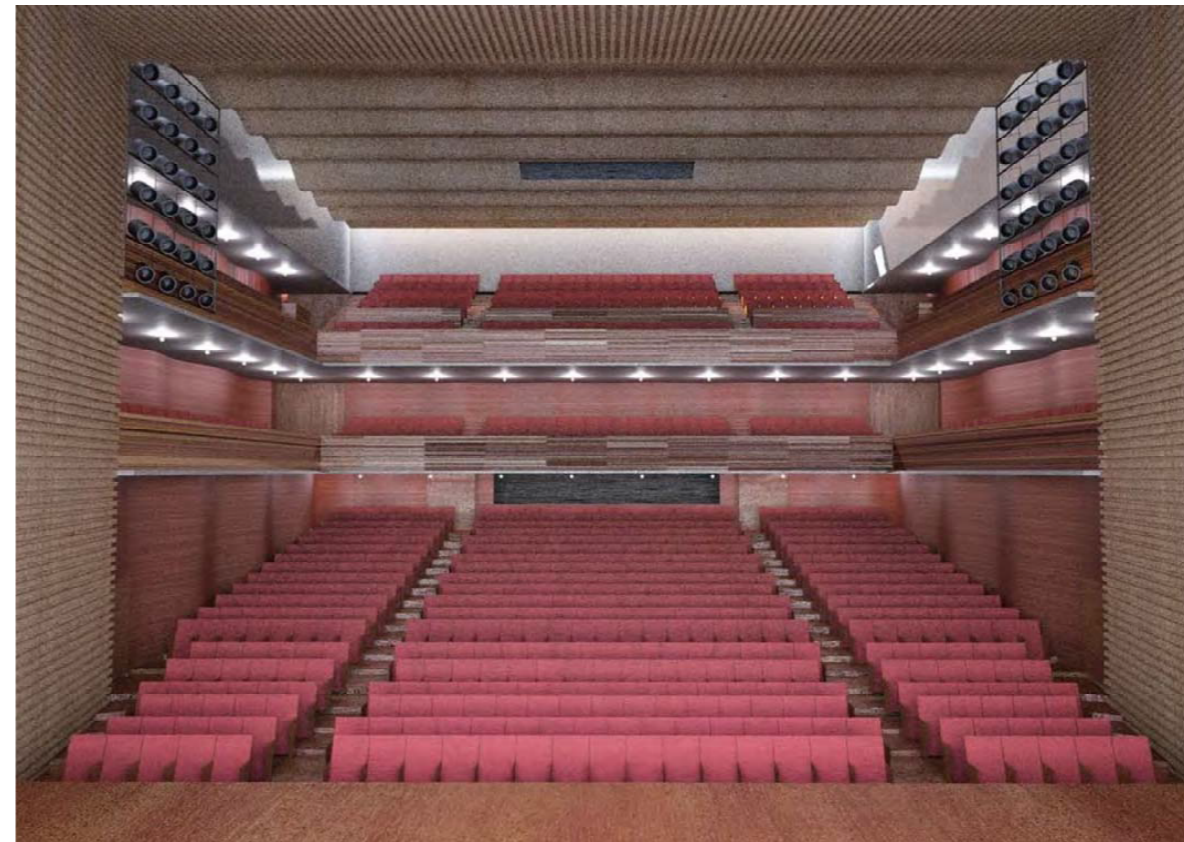
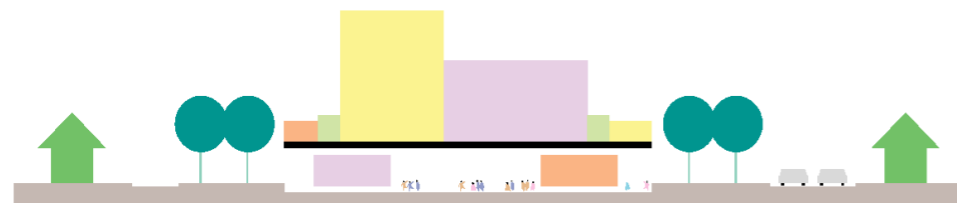
「そこに行けば誰かがいる」そういった施設となるよう、設計を行っています。回廊により普段は、どの場所でも誰もが入れる「表」として利用でき、場合によっては、表と裏を使い分けることができるよう工夫しています。

三つ目のコンセプトは、公演の時以外は寂しい雰囲気になりがちな施設の性格を鑑みて、いつも施設内ににぎわいをつくるということです。楽屋やリハーサル室はもとより、大ホールにいたっても、そこが本来の用途としてだけでなく、他の用途にも使えるようにするものです。そのことで、施設の隅々まで市民の利用が可能となり、日常的に色々な使い方ができる、使いきる場所の集まりとして、施設全体を計画します。

神楽をはじめとする伝統芸能や各種の文化活動、現代的なバンド演奏やコンサートなどが共に行われるよう、回廊を基本骨格として表と裏を様々な設定できるとい、「使いきる」ことのできる特徴を持つ施設としています。

霧の海に浮かぶまちのような市民ホールは、川と共に生きる市民ホールです。

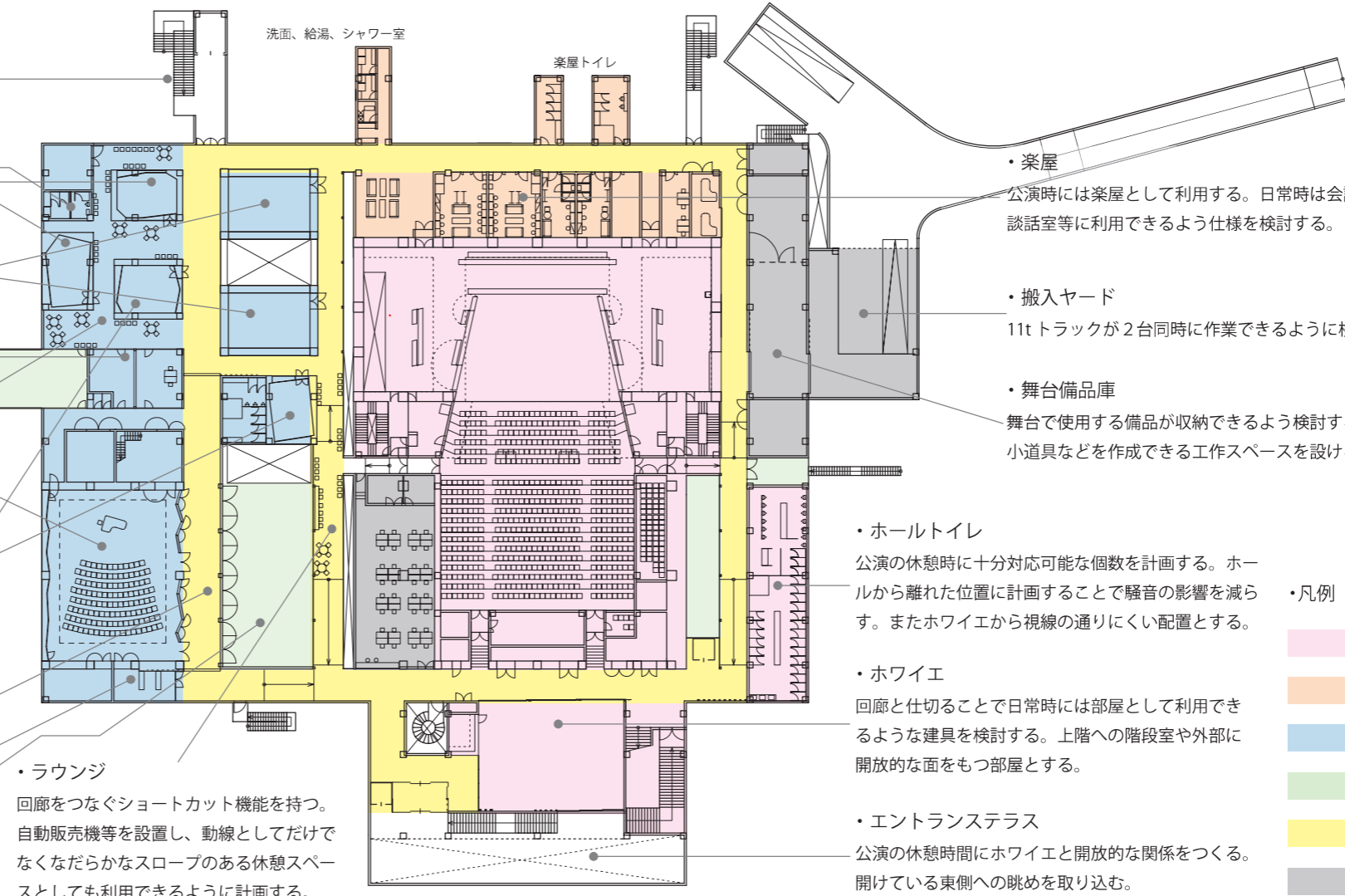
市民が積極的に施設を活用することで、歴史ある活動と日々の暮らしが交差し、三次の新たな文化を創り出すことができる、市民のためのホールをめざします。



平面計画[1F]

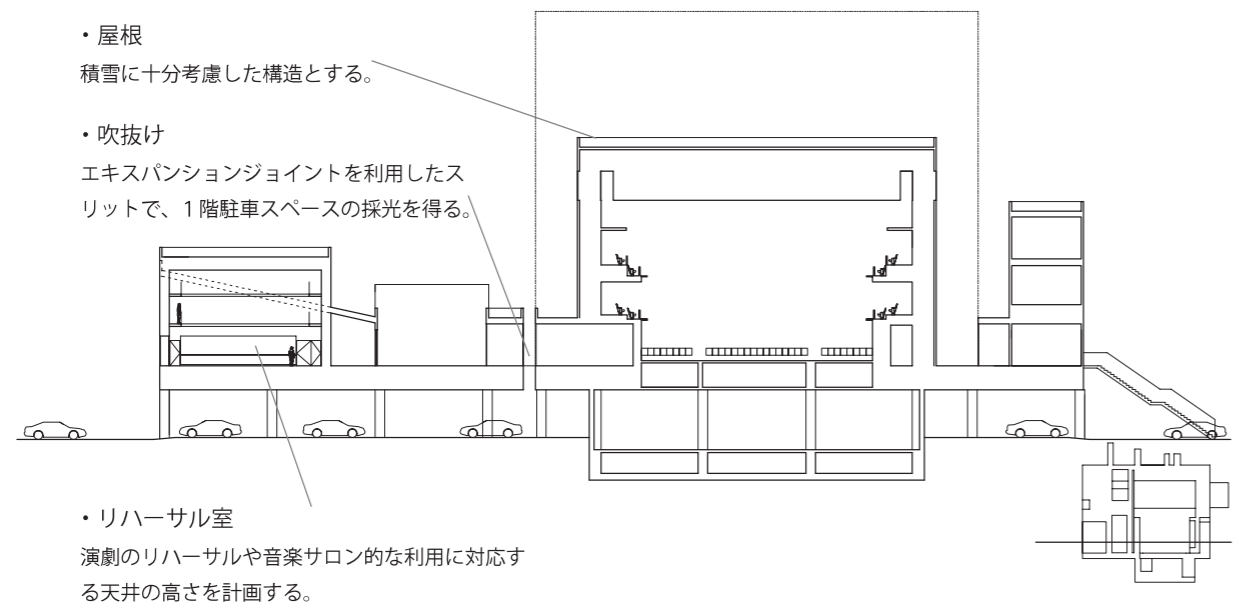
- ・創造支援部門トイレ**
 リハーサル室、ホールを同時利用している際にも、創造支援諸室ゾーンで独立して利用できるトイレを計画する。
- ・小スタジオ**
 回廊、創造支援部門ロビーに面して配置し、活動が見えるような仕様を検討する。バンド練習が可能な遮音性能をもつ部屋とする。
- ・多目的室**
 リハーサル室の控室、託児室、その他市民活動に利用する。
- ・リハーサル室**
 公演のリハーサルと日常的な練習ができるように計画する。小ホールとしての機能を兼ね備え、小規模な発表が可能なものとする。遮音に配慮し、ホールとの同時利用を可能にする。多目的な利用に対応できる平土間とする。
- ・調理室**
 リハーサル室へのパントリーとしてのサービス機能を計画する。独立した給湯室としての利用もできるようにする。

- ・サブエントランス**
 創造支援部門に近い位置に、駐車場からアクセスできるサブエントランスを設ける。リハーサル室等で使用する大きな荷物を搬入できる人荷用エレベータを検討する。
- ・大スタジオ**
 舞台の近くに配置し、大楽屋、又会議室として利用できるようにする。バンドの練習にも対応できる遮音性能を検討する。
- ・創造支援部門ロビー**
 練習に訪れた人が合間に休憩をするスペースとして、留まれる場所とする。
- ・練習室**
 回廊、創造支援部門ロビーに面して配置し、活動が見えるような仕様を検討する。生音の楽器練習、コーラス等で利用できる遮音性能をもつ部屋とする。
- ・回廊（南側）**
 リハーサル室を小ホール的に利用する際、回廊内に仕切りを設けてホワイエとなることを想定する。
- ・中庭**
 人が出ることができることを想定する。見通しのよい環境とする。

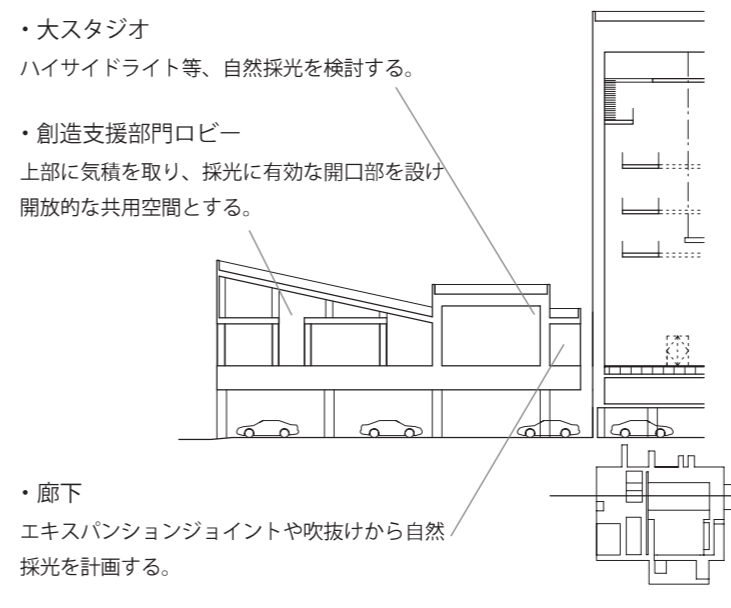


- ・楽屋**
 公演時には楽屋として利用する。日常時は会議室や談話室等に利用できるように仕様を検討する。
- ・搬入ヤード**
 11tトラックが2台同時に作業できるように検討する。
- ・舞台備品庫**
 舞台で使用する備品が収納できるよう検討する。小道具などを作成できるワークスペースを設ける。
- ・ホールトイレ**
 公演の休憩時に十分対応可能な個数を計画する。ホールから離れた位置に計画することで騒音の影響を減らす。またホワイエから視線の通りにくい配置とする。
- ・ホワイエ**
 回廊と仕切ることによって日常時には部屋として利用できるように建具を検討する。上階への階段室や外部に開放的な面をもつ部屋とする。
- ・エントランステラス**
 公演の休憩時間にホワイエと開放的な関係をつくる。開けている東側への眺めを取り込む。

- ・凡例 1:600
- ホール観客ゾーン
 - ホール出演者ゾーン
 - 創造支援諸室ゾーン
 - テラス、中庭
 - 回廊
 - 倉庫、関係者諸室等



- ・屋根**
 積雪に十分考慮した構造とする。
- ・吹抜け**
 エキスパンションジョイントを利用したスリットで、1階駐車スペースの採光を得る。
- ・リハーサル室**
 演劇のリハーサルや音楽サロンの利用に対応する天井の高さを計画する。



- ・大スタジオ**
 ハイサイドライト等、自然採光を検討する。
- ・創造支援部門ロビー**
 上部に気積を取り、採光に有効な開口部を設け開放的な共用空間とする。
- ・廊下**
 エキスパンションジョイントや吹抜けから自然採光を計画する。



回廊のイメージ

3. 建設費の参考事例 (㎡単価)

この調査資料は最近(入札においては進行中・入札結果は1ヶ年、計画書等は2ヶ年以内を目的)の公共文化施設の建設進行状況を新聞情報(建設通信デジタル版・全国紙・ローカル紙)や自治体のホームページ又NPOのネットワークでの情報等々で入手された資料や建設整備構想書・基本計画書等々から公開された事業費・予算・敷地・建築面積・延床面積を集計した資料です。(資料提供: 特定非営利活動法人 文化施設支援機構)

山形県 鶴岡市文化会館

整備基本計画書[計画書より]

計画予算 建築建設費 40 億 延床面積 7000 ㎡ ㎡単価= 57 万

[設計費・外構工事・備品を含み・・・45 億円]=64 万

[新聞情報]

実施設計完了時(1 回入札 不調)

予算 54 億 6224 万 延床面積 8066 ㎡ ㎡単価= 67.7 万

[規模はRC、S造地下1階地上3階建て延べ 8066 ㎡]

落札不調により(EV 設計変更と予算増額)

予算 65 億 8500 万 延床面積 8066 ㎡ ㎡単価= 82 万

① 入札 2/12 中止 ②入札 3/06 3 社辞退不調

③入札 5/14 参加者なし 中止 ④入札 6/10 中止・延期

⑤7/下→8/初→8/中→9 月中頃 入札再々延期(8/8 時点の情報)

[新聞情報](24. 08. 18.) [9 月中入札予定]

予算 78 億 9000 万 延床面積 8066 ㎡ ㎡単価= 97.82 万

愛媛県 四国中央市民文化ホール

[実施設計完了](日建設計) 第 1 回入札 不調

総事業費 57 億 延床面積 7620+899 ㎡ ㎡単価= 45.3 万

規模はRC・SRC造 地上3階建て塔屋2層 建築・機械・37 億 1851 万 8518 円

電気設備・6 億 4194 万 4444 円 舞台機構・3 億 1981 万 4814 円+

舞台音響・2 億 0796 万 2962 円 舞台照明・2 億 2490 万 7407 円。

[新聞情報]

第 2 回目 不調

予算追加再入札(予算増額のみ)[第 3 回 8/19 入札予定]

予算 63 億 9000 万 延床面積 11287 ㎡ ㎡単価= 56.61 万

香川県 観音寺市新市民会館

[建設基本計画](平成 24 年 11 月)

事業費 57 億? 延床面積 7000+969 m²=7969 m² m²単価= 71.5 万
(社会資本整備総合交付金制度と合併特例債を想定)

[新聞情報]

実施設計完了(日建設計) [第 1 回入札 不調]

総事業費 57 億 延床面積 7620+899 m²=8519 m² m²単価= 66.9 万
(規模は RC・SRC 造地上 3 階建 + RC 造平屋 1 層)

予算追加再入札(予算増額と設計見直し)……⇒[第 2 回 9 月再入札予定]

山形県 東根市公益文化施設(入札完了施工者決定)

[新聞情報より] (平成 26 年 7 月 26 日 入札決定)

入札決定(PFI) 65 億 5483 万 延床面積 4373 m² m²単価= 149.89 万
規模は S・RC 造 2 階建 敷地 2.2ha

ホール・図書館・美術館・市民活動センター・都市公園を整備

(PFI 落札グループ 鹿島建設・山下設計・三菱電機・NEC・図書館流通・山形ビルサービス)

兵庫県 相生市文化会館(入札完了 落札者 清水建設 JV)

[整備計画書](平成 25 年 7 月版)

ホール建設費想定 16 億 2000 万 延床面積 2700 m² m²単価=60 万

会館機能 建設費想定 3 億 延床面積 1000 m² m²単価=30 万

総事業費 26 億 延床面積 3700 m² m²単価= 70.3 万

[新聞情報より](平成 26 年 7 月 08 日 入札報道)

第 1 回入札 26.05.26. 予定価格超過により不調

第 2 回入札 26.07.07. 実施 指名競争入札により落札(HP で確認)

入札決定額 27 億 9400 万 延床面積 5660 m² m²単価= 49.36 万

規模は RC 造 3 階建 660 席ホール(三弘建築設計所・施行者清水建設)

[当初の総事業費計算すると 周辺環境整備費・外構整備費・設計費・音響設計・施工管理 費等々が不足し補正が必要]

岩手県 滝沢市交流拠点複合施設(入札完了施工者決定)

[基本整備計画時](平成 24 年 3 月版)

計画時予算 33.4 億 9000 万 延床面積 5000 m² m²単価= 66.80 万

[滝沢市 HP より](平成 26 年 7 月 30 日 入札)

入札決定 30.2 億 延床面積 6356 m²(図書館 1200 m²含む)

m²単価= 47.51 万

規模はS造2階建 延床 6356 m²(三菱地所設計・三井住友建設)

山形県 南陽市新文化会館(建設工事中)

[建設基本計画](平成 24 年 10 月版)

総事業費 45 億 延床面積 6000 m²以内

m²単価= 75 万

[南陽市 HP より]

第 1 回入札 (平成 25 年 9/17) 不調

第 2 回入札 (平成 25 年 9 月末~26 年 3 月入札)

入札 建築・機械(戸田 JV) 23 億 8600 万

外構工事(石川)3,280 万 切土工事(安部)1,950 万

木材調達①(森林組合)90,000 万 木材調達②(森林組合)62,000 万

排水管敷設 389 万 舞台機構(森平)1 億 746 万)

電気設備(照明・音響)2 億 9980 万

実施設計業務(大建設計)6695 万

入札決定 集計額 30 億 6840 万(10 億残あり) 延床面積 5883 m²

m²単価= 52.15 万

規模は耐火木造 地上 3 階、地下 1 階(大建設計・戸田建設 JV)

広島県 東広島市市民ホール(建設工事中)

[東広島市 HP より](平成 25 年 8 月~9 月入札)

入札 建築(清水 JV) 35 億 2000 万 電気(浅海 JV) 3 億 9520 万

機械(大成設備)6 億 4000 万 舞台機構(5 億 5210 万)・

照明(2 億 6750 万)・音響(2 億 0000 万)

合計金額 55 億 7480 万 延床面積 12000 m²

m²単価=46.5 万

規模はRC・SRC造地下 1 階地上 4 階建て塔屋 1 層 延床面積 12000 m²

福岡県 久留米市総合都市プラザ (建設工事中)

基本整備計画時[平成 23 年 11 月版]

予算 総事業費 148 億 延床面積 14250 m² ?

m²単価= 103 万

修正 総事業費 155 億 延床面積 36000 m² m²単価= 46.06 万

入札 1 回 建築費 64 億 4788 万 30600 m² m²単価=21.07 万(不調)

規模はRC・SRC造地下 2 階地上 6 階建て塔屋 2 層 延床面積 30,500 m²

[久留米市 HP より] (平成 25 年 8 月入札)

入札 2 回 建築(八街区) 67 億 2616 万 + 建築(九街区) 33 億 8608 万

=101 億 1224 万

電気(10 億 7450 万+7 億 1436 万)・機械(16 億 5100 万+3 億 6311 万)

舞台機構(7 億 9610 万)・照明(4 億 9986 万)・音響(4 億 9410 万)

[個別入札]

合計金額 154 億 4868 万 延床面積 30,600 m² m²単価=50.5 万

[施設整備計画書] (平成 26 年 6 月版)

[建設委託計画書]…… (平成 26 年 8 月公告)

大阪府 枚方市総合文化施設…(設計者選定中)

[計画書予算]

施設整備費 108 億 0200 万 延床面積 14552 m² m²単価= 74.22 万

[整備基本構想(案)] (平成 26 年 6 月版)

大阪府 東大阪新市民会館…(基本構想を公表)

構想書に事業予算や敷地や建設延床面積などの記載なし。m²単価= 公表なし

[整備基本構想(案)] (平成 26 年 6 月版)

宮城県 石巻複合文化施設…(基本構想を公表)

構想書には敷地未定(候補地 5 ヶ所)で予算併記なし。

建築・延床面積(ホール棟) 6760 m² m²単価= 公表なし

(ホール・学習機能棟 6760 m²+博物館 2640 m²+教養・管理棟 4250 m²=13650 m²)

[設計与条件書] (平成 26 年 4 月 15 日公告)

鹿児島県 瀬戸内町(奄美大島)文化会館 (設計者決定段階)

建設工事費 12 億 延床面積 2700 m² m² 単価= 44.5 万

[整備基本計画] (平成 26 年 4 月)

三重県 津市久居ホール…(基本計画を公表)

概算事業費 35 億 延床面積(ホール棟) 7000 m² m²単価= 50 万

(国交省…社会資本整備総合交付金…都市再生備事業交付金+合併特例債)

[建設研究会報告 平成 26 年 3 月]

佐賀県 鹿島市民会館(仮称)(検討委員会業答申書)

事業費(逆算) 27 億 延床面積 4470 m² m²単価=概ね 60 万程度

[基本構想(案) 平成 26 年 2 月]

福岡県 柳川市民会館(有識者委員会完了)

事業費 35 億(市長談) 建築面積 5000 m² 延床面積 7000 m²

m²単価= 50 万

(事業費公表なし・合併特例債+社会資本整備総合交付金を活用と記述)

[新聞情報]

大分県 竹田市民会館

既算事業費 21 億程度 専門部会基本構想をまとめ 14 年中設計^ア味^イで設計完了

[基本構想・基本計画書(案)] (平成 25 年 10 月版)

岩手県 釜石市民ホール・釜石情報交流センター [実施設計中]

事業費・予算について表記なし 延床面積(ホール)6100 m²(情報)1640 m²

m²単価= 公表なし

[基本計画書より] (平成 25 年 12 月版) [実施設計中]

島根県 安来市民会館

計画書予算 建築建設費 40~45 億 延床面積 7400 m²

m²単価= 50~60 万

[基本計画書] (平成 25 年 8 月版) [実施設計中]

北海道 新ひだか町総合町民センター

予算 建築建設費 17 億 延床面積 4000 m²

m²単価= 43 万

[支庁庁舎事務所 1020 m²を含む]

[基本計画書] (平成 24 年 4 月版) [実施設計中]

神奈川県 小田原市民ホール(小田原市芸術文化創造センター)

計画書予算 建築建設費 55~60 億 延床面積 10000~12000 m²

m²単価= 50~60 万

計画設計・完了時予算(5/19) 65 億 延床面積 10,000 m²

m²単価= 65 万

[建設基本構想・計画書] (平成 21 年 5 月版)

鹿児島県 阿久根市民会館建 (実施設計中)

計画構想 建築建設費 40 億 延床面積 7400 m²

m²単価= 54 万

計画予算 建築建設費 40~45 億 延床面積 7400 m² m²単価= 55~60 万

4. 鹿島市民会館建設検討委員会 委員リスト

【敬称略】

番号	H25 研究会 選出組織	H25 研究会 役職	H26 検討委員会 選出組織 役職	氏名	H26 検討 委員会 役職
	(H25 研究会推薦団体)				
1	鹿島市観光協会	座長 班チーフ	代表理事	ナカムラ ユウイチロウ 中村 雄一郎	座長
2	鹿島市区長会	—	会長	ニシモト カツジ 西本 勝次	副座長
3	鹿島ライオンズクラブ	班サブチーフ	直前会長	ニシムラ オサム 西村 宰	団体代表
4	フォーラム鹿島	班サブチーフ	代表世話人	サカモト テツヤ 坂本 鉄也	団体代表
5	鹿島商工会議所	女性代表	商工会議所女性会 会長	ミネマツ ヒロコ 峰松 浩子	女性代表
	(H25 研究会公募委員)				
6	公募委員	公募代表		ナカヤマ ヒロシ 中山 博	公募代表
7	公募委員	公募代表		ヤマグチ フミヨシ 山口 文吉	公募代表
	(学識経験者)				
8	佐賀大学	コーディネーター	佐賀大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授(1級建築士)	ミシマ ノブオ 三島 伸雄	コーディネー ター

【敬称略】

番号	H26 検討委員会 選出組織	—	H26 検討委員会 選出組織役職	氏名	—
	(市長が特に必要と認める者)				
9	一般財団法人 鹿島市民立 生涯学習・文化振興財団		事務局長	フジイ ミカ 藤井 美佳	
	(鹿島市)				
10	鹿島市		鹿島市役所総務部 総務課 嘱託職員(1級建築士)	クワハラ ヒロキ 桑原 秀樹	

(市役所関係部署)

	(総務部)	総務課		総務課
		企画財政課		企画財 政課
	(建設環境部)	都市建設課		都市建 設課
	(教育委員会)	生涯学習課		生涯学 習課

報告書作成(委託研究)

委託契約:

国立大学法人佐賀大学(研究代表者 三島伸雄)

三島伸雄研究室(◎総括 ○総括補助)

◎ 三島 伸雄 佐賀大学大学院工学系研究科・教授・博士(工学)・一級建築士

○ 瀧上貴由樹 佐賀大学大学院工学系研究科・助教・一級建築士